

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-01	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事					
事務事業名	地域少年育成活動補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	宇津野	内線	3355			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-08-01	地域少年育成活動補助						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 41 年度	根拠	荒川区補助金交付規則					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03	体験学習等の推進					
目的	集団生活、野外活動を通して、子どもたちの協調性、生活能力、チームワークを学習するとともに、グループ活動を通して、リーダーの養成を図るため、荒川区内の少年団体の連合体が主催する少年キャンプ及び子ども会大会等を支援する。							
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会							
内容	それぞれの事業に対し、事業費の一部を補助する。 【少年キャンプ（チャレンジキャンプ）】 区主催のチャレンジ共和国に参加した小中学生等を対象に、共和国で学んだことを実地で体験し、生きる力を養うことを目的に、各地のキャンプ場等で実施 ・令和元年8月23日（金）～8月25日（日） 国立磐梯青少年交流の家 【全国連携・自然体験事業】 自然体験を通して、子どもたちの自尊感情の醸成を図るため実施 ・令和元年10月13日（日）～14日（月） 秩父予定 【子ども会大会】 子ども会に加入している小学生、少年キャンプ参加者等を対象に、各子ども会や子ども同士の交流等を目的にゲームやクイズクラリーなどを実施（令和元年11月24日（日））							
経過	【自然体験事業・少年キャンプ・子ども会大会】 ・昭和38年度 子ども会大会を開始 ・昭和41年度 少年団体指導者研修会（リーダーキャンプ）開始 ・昭和62年度 リーダーキャンプを「チャレンジキャンプ」として拡大 ・平成12年度 荒川区少年団体指導者連絡会への補助事業としてキャンプと子ども会大会を実施 ・平成26年度～組織改正に伴い、生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施 ・平成28年度 自然体験事業開始（東京都奥多摩町） ・平成29年度 自然体験事業実施（東京都奥多摩町） ・平成30年度 自然体験事業実施（埼玉県秩父市）							
必要性	子どもたちが野外活動やウォークラリー等を通して、自主性や協調性、社会性を養うことは、心身の健全育成に大きく寄与するものであり、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するためにも充実する必要がある。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 各主催団体に対し、区が補助する。 【主催団体】荒川区少年団体指導者連絡会							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	自然体験事業参加者数	50	48	54	50	50	運営者を含む
	②	キャンプ参加者数	120	102	91	110	120	29年度より参加年齢を4年生以上に引き上げ（運営者を含む）
③	キャンプ参加者の「生きる力」の習得率	3.66	3.55	3.7	3.8	4.00	GAHアンケートの回答平均値(28年度全体 3.4)	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
推進	推進	継続して補助を行うことにより、子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		3,711	2,165	1,357	2,321	2,323	2,322	2,820
決算額（元年度は見込み）		3,710	2,158	1,335	2,310	2,306	2,318	2,820
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
自然体験事業参加者（児童・生徒）		-	-	-	25	28	31	30
キャンプ参加者（児童・生徒）		83	78	92	80	61	48	80
子ども会大会参加者（児童・生徒・育成者）		202	165	164	130	109	190	200

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	職員旅費	11	旅費	職員旅費	17	旅費	職員旅費	22
負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,294	負担金補助等	少年キャンプ事業費補助等	2,286	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,798

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	816	3,800	2,984	地方税	0	0	0	
	物件費	11	19	8	国庫支出金	503	503	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	2,294	2,299	5	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	503	503	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	81	203	122	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 2,699	▲ 5,818	▲ 3,119	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	3,202	6,321	3,119	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 2,699	▲ 5,818	▲ 3,119	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 2,699	▲ 5,818	▲ 3,119		

備考 行政費用では、補助事業のため、補助費等に2,299円かかっている。主な内訳として、少年キャンプ事業補助1,230千円、子ども会大会補助50千円、自然体験事業補助1,000千円がかかっている。

問題点・課題 ①自然体験事業については、多様な自然体験と全国連携事業としての趣旨も鑑み、実施場所を検討する必要がある。
②チャレンジ共和国で学んだことをキャンプにつなげ、実践することにより、青少年リーダーとしての資質を高めることができるよう、各種事業内容について団体と協議を重ねる必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	多様な自然体験ができるよう、地域を限らず、様々な自治体で実施することを検討する。	自然体験の充実のため友好都市である秩父市で事業を行い、ライン下りを含む新しい体験が出来た。	プログラムがもっとスムーズに進行できるよう、団体と実施施設との調整を支援していく。
②	より円滑な事業運営について関係団体と協議を行い、学びを活かし、広げる仕組みを再構築する。	事業内容を充実させるため、実地踏査から参加する等、検討段階から支援した。	関係団体と協議を行い、引き続き、より円滑な事業運営に努める。
③			

他区の実況	(実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区)
議会議事録(要旨)	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-02	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	少年教室	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	宇津野	内線	3355			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-08-02	少年教室						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 59 年度	根拠	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等	荒川区小学校合宿通学事業補助金交付要綱					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03	体験学習等の推進					
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちが、学校や家庭では体験できない様々な体験教室に参加することによって、異年齢交流や学校以外の友達づくりのきっかけとなり、地域での自発的な活動につながるとともに、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばす。							
対象者等	【チャレンジ共和国】（プレチャレンジ）小学3年生（エンジョイコース）小学4～6年生（マスターコース）中学生 【少年少女体験教室】小学3年生以上 【中学生味コソ】中学1～2年生 【中高生リーダー-養成講座】中～高校生							
内容	【チャレンジ共和国】（プレチャレンジ）定員100名、（エンジョイコース）定員120名、（マスターコース）定員20名 荒川区少年団体指導者連絡会（以下、荒小連）や青少年委員連絡会との企画会議で内容を決定する 5～6月に計4回実施。※プレチャレンジは1～2月に実施。工作、レク、調理、化学実験、モノづくりなどを体験する 【少年少女体験教室】 ・大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう（23年度まで「ペットボトルロケットを作ろう」）定員親子15組 ・荒工おもしろ体験教室…3コース（サトウプラストのコップ作り30名・電子サイコロ40名・うちわ30名） 【中学生ロボコン】定員40名 ロボット製作と競技会を実施。準備会12～1月に6回（最終日高専大会）のほか、北区大会、荒川区大会3月、エキシビジョンマッチ大会4月 【中高生リーダー-養成講座】イベントの企画・運営、レクの実習等を行う							
経過	【チャレンジ共和国】 昭和59年度開始（昭和53年度からジュニアリーダー講座として実施） 平成29年度から小学3年生のみを対象にプレチャレンジ共和国（全2回）を実施。 【少年少女体験教室】 平成5年度開始 ・荒工おもしろ体験教室：平成12年度開始 平成27年度は会場の工事に伴い1コースのみ実施 平成30年度は電子工作の定員を10名増員 ・高専おもしろ教室：平成13～23年度はペットボトルロケット、平成24年度以降大きな紙ヒコーキ 【中学生ロボコン】 平成13年度開始 平成30年度は安全面から定員40名に 【中高生リーダー-養成講座】 平成20年度から中高生リーダー研修として実施、平成23年度に改称 平成25年度は実施なし 【合宿通学】 平成11年度に試行的に実施、平成13年度から実行委員会形式で実施し、補助金を支出 ※平成26年度から教育委員会事務の補助執行として実施。合宿通学は教育総務課が実施。							
必要性	直接体験が不足している子どもの体験活動の機会を増やし、興味や関心を広げるとともに、共同作業を通して協調性や自主性を養う事業であり、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するためにも必要である。							
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員） チャレンジ、養成講座…共催：荒小連／体験教室…共催：荒工／紙ヒコーキ…協力：産技高専／味コソ…共催：北区教委、自然科学フォーラム、協力：産技高専／合宿通学…主催：実行委員会							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値（8年度）
	①	チャレンジ共和国出席率（%）	85	89	83	83	90	延べ出席者数／延べ申込者数
	②	チャレンジ共和国参加者満足度（%）	-	90	90	92	95	満足度調査は29年度より実施
③	少年少女体験教室・中学生味コソ（参加者数）	158	135	127	150	150		
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度	子どもに多様な体験をさせる事業であるため、継続して実施する。						
継続	継続							

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		1,606	801	797	797	869	935	913
決算額（元年度は見込み）		1,103	522	638	568	690	751	913
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
チャレンジ共和国参加者数		184	236	206	219	156	147	150
少年少女体験教室参加者数		112	102	58	119	104	95	110
中学生ロボコン参加者数		48	47	29	39	31	32	40
合宿通学（参加者数／実施校）		177 / 9	—	—	—	—	—	—

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	484	報償費	謝礼	489	報償費	謝礼	584
需用費	消耗品費	206	需用費	消耗品費	285	需用費	消耗品費	321
						使用料及び賃借料	その他の使用料及び賃借料	8

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	3,833	4,644	811	地方税	0	0	0	
	物件費	206	262	56	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	484	489	5	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	379	249	▲ 130	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 4,902	▲ 5,644	▲ 742	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	4,902	5,644	742	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 4,902	▲ 5,644	▲ 742	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 4,902	▲ 5,644	▲ 742		

備考 行政費用では、補助費等が多くかかっている。内訳としては、謝礼として、プレチャレンジ・チャレンジ共和国に267千円、中高生リーダー養成講座に52千円、ロボコンなど少年少女体験教室に170千円がかかっている。

問題点・課題 ①プレチャレンジ共和国(小学3年生対象)からチャレンジ共和国への流れを確立するため講座内容、時期等、効果的な実施方法について検討する必要がある。
②より多くの子どもたちが学校や家庭では経験できない直接体験を行うことができるよう、関係団体や機関と協議し講座内容や回数などについて検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	プレ・チャレンジ共和国の参加者が、4年生以降もチャレンジ共和国に引き続き参加しやすくなるよう実施時期を変更する。	次年度のチャレンジ共和国につながるよう、プレ・チャレンジ共和国の実施を2月に変更した。	講座間の連携を強化するスキームを検討する。
②	より多くの子どもたちが参加できるよう、実施方法を検討する。	キャンセル待ちの繰り上げを速やかに、欠員を減らした。	荒工・産技高専と協議し、より多くの子どもたちが参加できる実施方法、魅力的な講座内容について検討する。
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
類似事業を含む	
議会要旨	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-03	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	家庭教育の向上	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	奈良	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-09-01	家庭教育の向上					
	01-09-02	地域の教育力向上					
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 39 年度	根拠	親育ち支援事業実施要綱、地域教育力向上支援事業実施要綱・同補助金交付要綱 等				
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準	計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画	<input type="checkbox"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	11	家庭教育の支援と地域教育力の向上				
目的	青少年の健全育成の基盤となる家庭や家族の役割などを学ぶことにより、家庭の教育力を向上させる。地域による子育て世代への支援や、地域の中で健やかな子どもを育むための活動など、地域の教育力の向上を図る。						
対象者等	子育て中の親・保護者 子育て世代の支援者等						
内容	<p>【家庭教育学級】家庭での子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方などについて、専門家による講義を実施（定員30～50名、乳幼児コース荒川・町屋会場、尾久会場、南千住会場各2回、小中学生コース3回）そのほか、PTAと連携した家庭教育学級を実施</p> <p>【あらかわ「親育ち」支援事業】子育てサークル等が行う子育てに関する学習活動の講師・託児謝礼を1グループ年2回まで支援</p> <p>【地域子育て教室】地域で子育てをする環境を整備するため、子育て世代の交流等を目的として講座を実施（地域のサポーター養成講座、パバスクール、ママ企画講座）</p> <p>【荒川区地域教育力向上支援事業（あらかわ子コミュニティ事業）】地域の教育力向上を図るため、子どもを核とした家族や近隣住民の交流事業等に対して補助活用団体による連合体を補助対象とし、「あらかわ子コミュニティフェスタ」実施</p>						
経過	<p>【家庭教育学級】昭和39年度開始。平成13年度以降「明日の親コース」は保健所の事業に統合。必要に応じて小学校高学年・中学校コースを実施（20年度～小中学生コース、21年度～小中学生コース（秋季）の実施に代わり、PTA連携家庭教育学級開始）。平成23年度から乳児コース開始（25年度～乳幼児コース）</p> <p>【あらかわ「親育ち」支援事業】平成7年度、「子育てひろば」として開始。平成20年度から事業名変更</p> <p>【地域子育て教室】平成17年度開始。平成20年度からふれあい館連携講座、布絵本（布おもちゃ）講座開始 平成21年度から地域の子育てサポーター養成講座、平成23年度からあらかわパバスクール、平成29年度からあらかわママ企画講座開始</p> <p>【荒川区地域教育力向上支援事業】平成21年度開始。平成27年度、申請増に対応するため予算増額 平成30年度、活用団体による連合体を補助対象とし、「あらかわ子コミュニティフェスタ」実施</p>						
必要性	少子化の進む社会環境の変化や、家庭教育力の低下など、子どもたちや子育て中の親をめぐる様々な課題があり、親が学びあうことは、家庭教育の向上に資するものであり、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するためにも充実する必要がある。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員） 平成26年度組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課が教育委員会の補助執行として実施						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 参加率（家庭教育学級・地域子育て教室）（%）	83	84	80	85	90	参加者数/募集定員（延べ人数）
	② 実施団体数（あらかわ「親育ち」支援事業）	40	35	33	40	50	延べ数（1団体2回まで）
③ 満足度（家庭教育学級）（%）	99	96	98	99	100	事業後のアンケートで5段階評価のうち5・4と回答した方の割合	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
重点的に推進	重点的に推進	家庭教育は全ての教育の出発点である。子どもへの基本的な生活習慣や他人への思いやりなどを身につける家庭教育講座の実施は重要であり、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		3,621	3,553	3,954	3,954	3,931	4,421	4,334
決算額（元年度は見込み）		2,331	2,609	3,029	2,772	2,696	2,815	4,334
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
家庭教育学級（PTA連携除く）参加者／延		173/332	182/352	193/461	145/310	148/240	125/208	150/300
「親育ち」支援事業（延団体数/参加者数）		37/1,720	40/2,118	44/2,444	40/2,136	35/1850	33/1,254	40/1,900
子コミュニティ事業支援団体数		8	8	8	7	7	6	7
地域子育て教室（サポーター含）延参加者数		119	236	80	63	70	68	70

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	家庭教育・親育ち講師・託児謝礼	1,299	報償費	家庭教育・親育ち講師・託児謝礼	1,244	報償費	家庭教育・親育ち講師・託児謝礼	2,234
報償費	地域子育て教室講師・託児謝礼	169	報償費	地域子育て教室講師・託児謝礼	247	報償費	地域子育て教室講師・託児謝礼	350
需用費	家庭教育・親育ち飲料・消耗品	14	需用費	家庭教育・親育ち飲料・消耗品	19	需用費	家庭教育・親育ち飲料・消耗品	22
需用費	地域子育て教室飲料・消耗品	14	需用費	地域子育て教室飲料・消耗品	25	需用費	地域子育て教室飲料・消耗品	28
負担金補助等	地域教育力向上支援補助	1,200	負担金補助等	地域教育力向上支援補助	1,300	負担金補助等	地域教育力向上支援補助	1,700

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	6,606	6,755	149	地方税	0	0	0	
	物件費	28	43	15	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	600	650	50	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	2,668	2,772	104	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	600	650	50	
	賞与・退職給与引当金繰入額	653	361	▲ 292	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 9,355	▲ 9,281	74	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	9,955	9,931	▲ 24	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 9,355	▲ 9,281	74	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 9,355	▲ 9,281	74		

備考 行政費用では、補助費等が多くかかっている。補助費等の内訳としては、地域教育力向上支援事業の補助金が1,200千円と多く占めており、他は、講師や託児サポーターへの報償費である。行政収入では、地域教育力向上支援事業に対し、都補助金として、650千円収入があった。

- 問題点・課題
- ① P T A 連携家庭教育学級は、当事業を活用する P T A が固定化する傾向が見られる。
 - ② 親育ち支援事業は申請団体及び申請数が減少している。
 - ③ 家庭教育学級は受講定員を超える申し込みがあることから、より多くの区民が受講できる体制を構築する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	P T A 連携家庭教育学級の見直しなど、小・中学生の保護者がより実施しやすく、受講しやすい講座の実施方法を検討する。	学校長や P T A 会長だけではなく、区主催家庭教育学級に参加した保護者に直接周知を行った結果、申請数が増えた。	荒教研養護（保健）部会等に周知を行い、連携を図ることで、実施校を拡大する。
②	対象事業を見直し、より多くのサークルが活用できるよう検討する。	区内の子育てサークルの現状や需要について見極め、補助対象を拡大するよう検討した。	補助対象の拡大に関する周知を行うとともに、子育て、教育等の関連部署と連携を深め、より効果的な事業運営をする。
③	ボランティアとの連携を深め、託児の受け入れを充実させる。また、受講者を多く受け入れることが可能な講座内容を検討する。	講座内容を慎重に検討し、一部の講座については、受講定員を増員し、より多くの方へ学びを提供できた。託児定員も充実させた。	より多くの区民や子育て世代が講座に参加できるよう、実施会場（地区）の見直しと、実施回数を拡充する。

他区の実況	（実施 22 区		未実施 0 区		不明 0 区）	
	況（要旨）	平成26年度 6月会議	家庭教育の拡充について	平成30年度 2月会議	家庭教育支援行政の充実について	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-04	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	青少年委員事務費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	清水	内線	3352			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-05-01	青少年委員事務費						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 33 年度	根拠	荒川区青少年委員設置要綱					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等						
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	青少年委員が地域の子ども会や青少年団体、PTAへの活動支援を行うことにより、子ども達の体験活動を充実させるとともに、地域の結び付きを深めることで、青少年が健全に育つ環境を醸成する。							
対象者等	①地域の子どもたち ②地域の青少年関係団体（荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年育成地区委員会等） ③小・中学校PTA							
内容	<p>【委員数】現員39名（定員40名） 【報酬】月額8,250円 【身分】地方公務員法に定める特別職（非常勤職員） 【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ相当な実績をあげつつある者 【任期】2年間（6期まで再任可） 【対象者】区内在住・在勤者で委嘱時に満65歳未満の者</p> <p><荒川区青少年委員連絡会>・・・委員の自主組織（会長、副会長3名、会計2名、会計監査3名） 【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会 【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会 【地域部会】南千住、荒川・町屋、尾久、日暮里4ブロック…青少年育成地区委員会事業への協力等</p>							
経過	昭和28年度 東京都青少年委員制度設置 （総数265名：各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名） 昭和30年度 各小学校区から1名を推薦・委嘱（総数500名余、任期2年） 昭和33年度 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定 昭和39年度 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管 平成2年度 青少年委員40人体制となる 平成25年度 青少年委員制度60周年記念行事実施 平成27年度 青少年委員城北ブロック研修会を荒川区で開催 平成31年度 青少年委員城北ブロック研修会を荒川区で開催予定							
必要性	青少年の余暇指導や地域・学校との連携等、青少年教育の振興に果たす役割は大きく、荒川区第三次生涯学習推進計画の施策の柱3「地域活動団体への支援」を推進するためにも必要である。							
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	青少年委員連絡会定例会への出席率(%)	80.6	80	80	80	80	出席者数/定例会数×委員数
	②	参加(関連)事業総数(事業)	61	62	66	66	70	主催及び協力事業数
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	青少年の健全育成に寄与しており、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		5,771	5,775	5,616	5,752	5,368	6,027	5,986
決算額（元年度は見込み）		5,187	5,313	5,199	5,285	4,928	5,221	5,986
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
青少年委員連絡会の実施事業数		18	19	20	26	25	29	29
青少年委員連絡会の協力事業数		30	34	30	35	37	37	37
青少年委員数		40	40	40	40	40	39	39

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	委員報酬	3,960	報酬	委員報酬	3,860	報酬	委員報酬	3,960
報償費	研修会講師謝礼	0	報償費	研修会講師謝礼	22	報償費	研修会講師謝礼	62
旅費	宿泊研修会旅費等	224	旅費	宿泊研修会旅費等	277	旅費	宿泊研修会旅費等	374
需用費	賄・消耗品・印刷等	303	需用費	賄・消耗品・印刷等	618	需用費	賄・消耗品・印刷等	666
役務費	委員保険料等	74	役務費	委員保険料等	74	役務費	委員保険料等	102
使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	227	使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	232	使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	627
負担金補助等	都連合会分担金等	140	負担金補助等	都連合会分担金等	138	負担金補助等	都連合会分担金等	195

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	12,769	12,473	▲ 296	地方税	0	0	0	
	物件費	755	1,127	372	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	213	232	19	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	871	461	▲ 410	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 14,608	▲ 14,293	315	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	14,608	14,293	▲ 315	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 14,608	▲ 14,293	315	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 14,608	▲ 14,293	315		

備考 行政費用では、給与関係費が12,473千円と全体の約87%を占めている。

問題点・課題 ①31年度当番区として開催する城北ブロック研修会は、未経験の委員も多いため、新たに組織する実行委員会を中心に、迅速且つ丁寧な準備活動ができるよう事務局として支援する。
②31年度は会長を含め複数の委員の退任が予定されるため、三役及び各ブロック長と緊密な連絡調整を行なうとともに、定員40名に対し39名体制で活動している今期及び来期の新体制を連絡会と事務局で慎重に協議しながら進める必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	新任委員が委員活動を理解し行事に取り組むとともに委員同士のつながりを支援できるよう各種研修会の充実を図る。	調査研修部会を中心に新任研修1回、日帰り研修3回を開催し知識やスキルの向上とともに新旧委員の親睦を図ることができた。	北・台東・文京・荒川4区が年に1回持ち回りで開催している城北ブロック研修会を当番区として円滑に開催できるように努める。
②	各部会の協議内容等を十分吟味し、開催回数を必要最低限にとどめ、各委員の負担が減るようにしつつ活動の充実を図る。	新たな取り組みで区内小学校3校の校庭利用日に自主事業「みんなde遊ぼう!」を開催し委員の負担軽減と事業数増を両立できた。	城北ブロック研修会開催当番区として年2回発行の青少年委員だよりに加え臨時号を発行し、広報部会を中心に内容充実を図る。
③	「合宿通学」や「校庭利用」に青少年委員が関わり、青少年委員と地域のつながりを増やし、委員候補獲得につなげる。	上記の取り組みを通じて、各小学校PTA関係者等との新たな接点をもつことができ、青少年委員連絡会のPRにもつながった。	任期満了等に伴い複数の退任委員があるため新任委員選出に委員と事務局が連携し情報共有や必要な対応を円滑に行う。

他区の実況	(実施 19 区 未実施 3 区 不明 0 区)
平成31年4月現在委員数千代田24, 中央25, 港27, 文京29, 台東37, 墨田26, 江東45, 品川24, 目黒35, 大田58, 渋谷32, 杉並45, 北61, 板橋58, 江戸川60, 荒川区39の16区が東京青少年委員会連合会加入、委員総数625。	

況 議会質問状 (要旨)

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-05	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働 <input type="checkbox"/> 業務 <input type="checkbox"/> 財務 <input type="checkbox"/> 人事					
事務事業名	優良青少年団体・個人表彰	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	宇津野	内線	3355			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-06-01	優良青少年団体、個人表彰						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	46	年度	根拠	荒川区優良青少年団体・個人表彰実施要綱			
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		年度	法令等				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	青少年団体の健全育成と発展のため、特に優れている青少年団体及び団体活動に貢献してきた個人を表彰する。							
対象者等	1 日常活動が特に優れている少年団体及び青年団体 2 団体活動に貢献してきた個人							
内容	【実施方法】 1 荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会に表彰候補者の推薦を依頼 2 青少年委員連絡会の役員により組織する審査委員会に諮問 3 審査会の答申を得て教育長が決定し、教育委員会が表彰する 4 子ども会大会、青年大会において表彰予定 【審査委員会】 青少年委員連絡会から6名（会長、副会長3名、会計2名）							
経過	・昭和40年 長谷川賞（初代 教育委員会教育委員・長谷川伊三郎氏が私財を投じて設置）が前身 ・昭和46年 教育委員会表彰となる ・平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施							
必要性	青少年団体とその団体活動に貢献してきた個人への表彰は、それまでの活動を賞賛するだけでなく、その後の活動にも多いに励みになっており、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するためにも必要である。							
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	団体表彰	0	1	1	1	2	
	②	個人表彰	2	1	1	1	2	
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	青少年の健全育成のために貢献する励みとともに、個人及び団体活動の活性化のきっかけとして必要であるため、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		34	38	37	39	39	39	39
決算額 (元年度は見込み)		18	18	18	18	19	18	39
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名 (元年度は見込み)								
受賞者数 (個人・団体)		2	2	2	2	2	2	2
予算・決算の内訳								
平成29年度 (決算)			平成30年度 (決算)			令和元年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
需用費	記念品・審査会賄	11	需用費	記念品・審査会賄	12	需用費	記念品・審査会賄	23
役務費	表彰状筆耕	8	役務費	表彰状筆耕	6	役務費	表彰状筆耕	16

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
	給与関係費	489	507	▲ 18	地方税	0	0	0	
	物件費	19	18	▲ 1	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計 (a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	48	27	▲ 21	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	▲ 556	▲ 552	4	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額 (d)	0	0	0	
	行政費用合計 (b)	556	552	▲ 4	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	▲ 556	▲ 552	4	
	特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0	
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	▲ 556	▲ 552	4	

備考 行政費用では、給与関係費と物件費がかかっている。物件費の内訳として、記念品・審査会賄11千円、表彰状筆耕7千円がかかっている。

問題点・課題 区内の青年団体の活動が衰退し、青年団体からの被表彰者推薦が無い状況である。青年団体の活動の活性化により候補者を増やしていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒青連の活動を支援するとともに、区内で活動する団体について情報収集を行い、被表彰候補者の窓口を広げる。	区内で活動する団体について情報収集を行い、被表彰候補者の窓口を広げた。	区内で活動する団体の活動を支援することにより、被表彰候補者を増やす。
②			
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
議会議況(要旨)	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-06	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	心身障がい者青年教室「さくら教室」	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	高安	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-07-01	心身障がい者青年教室					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 41 年度	根拠	無し				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等	無し				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者が、継続的・計画的な講座を受講することにより、余暇活動を充実させるとともに、自主性・社会性・協調性・教養を身につけることができるよう支援する。						
対象者等	区立中学校特別支援学級卒業生及び区内在住・在勤の心身障がい者。						
内容	<p>知的障がい者の知識や技能の習得や余暇活動の充実、個性や特性を発揮する場の創設を目的に、教室を開催する。</p> <p>【会場】 荒川区立第一中学校他 【日時】 年間17回、日曜日、午前9時15分～（半日または1日） 【内容】 クラブ活動（パソコン・音楽・美術・調理・生花・スポーツ）、学級活動、校外学習 水泳・室内レク、城北ブロック合同レクリエーション大会、お楽しみ会、作品展 【協力】 ボランティア講師、保護者、手をつなぐ親の会、青少年委員、荒川区水泳連盟 障害者スポーツ指導員</p>						
経過	昭和41年度 特別支援学級の職業実習科卒業生を対象に開設（年22回） 昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始 平成14年度 作品展会場を区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更 平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更 平成22年度 スポーツクラブ新設し6クラブに。学級活動名称を毎年受講生が決定するように変更 平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課で、教育委員会事務の補助執行として実施 平成27年度 全小中学校のタブレットPC化に伴い、パソコンクラブを生涯学習センターに移行。 平成28年度 一中タブレットPCをパソコンクラブに活用。作品展をARAKAWA1-1-1ギャラリーで実施。 さくら教室について、障がい者スポーツフェスティバルにて周知を開始。 平成29年度 作品展をゆいアートと連携して実施。 平成30年度 室内レクや学級活動にて「あらかわの心」カルタや荒川音頭を実施。						
必要性	生涯学習の機会が少ない心身障がい者に対して、社会人として必要な自主性・社会性・協調性、教養を身につけることを支援する事業であり、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するためにも必要である。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 常勤、非常勤の他、ボランティア講師によって運営されている。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 受講生(人)	86	79	84	88	90	
	② 平均参加率(%)	82.7	83.1	83.5	84	85	
③ 受講生、保護者の満足度	-	80	90	95	100	満足度調査は平成29年度より実施	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	心身障がい者の自主性・社会性・協調性・教養を養うため、継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		2,217	2,241	2,267	2,517	2,551	2,570	2,773
決算額（元年度は見込み）		2,100	1,929	2,062	2,347	2,406	2,329	2,773
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
延べ参加受講生数（人）		1,074	1,157	1,193	1,206	1,124	1,193	1,257
受講生数（人）		81	82	85	86	79	84	88
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	1,870	報償費	講師謝礼	1,858	報償費	講師謝礼	2,120
需用費	消耗品等	71	需用費	消耗品等	60	需用費	消耗品等	97
役務費	申し込みハガキ	81	役務費	申し込みハガキ	74	役務費	申し込みハガキ	79
使用料等	借上げバス等	384	使用料等	借上げバス等	337	使用料等	借上げバス等	477

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	5,546	4,053	▲ 1,493	地方税	0	0	0
	物件費	536	471	▲ 65	国庫支出金	700	743	43
	維持補修費	0	0	0	都支出金	350	370	20
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	1,870	1,858	▲ 12	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	1,050	1,113	63
	賞与・退職給与引当金繰入額	548	217	▲ 331	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 7,450	▲ 5,486	1,964
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	8,500	6,599	▲ 1,901	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 7,450	▲ 5,486	1,964
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 7,450	▲ 5,486	1,964	

備考 行政費用では、補助費等と物件費が多くかかっている。補助費等の内訳は、講師謝礼1,858千円である。また、物件費の減少は、主に校外学習に係るバス借上げ費用の減少による。

問題点・課題 ①受講生の高齢が進み受講生の年齢の幅が広がったため、年齢や運動能力に応じたプログラムの整備が必要である。
②スタッフの高齢化も進んでおり、新規スタッフの育成が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	受講生・保護者・スタッフのニーズや受講生の運動能力等を参考に、柔軟で幅広いプログラムを整備する。	受講生の要望等を参考に、校外学習の行先や合同レク大会の担当種目等を選定し、能力に合わせた運動プログラムを作成した。	年齢・運動能力等に配慮したプログラムの整備、スタッフ配置を工夫する。
②	区に関わる若者等に事業をPRし、体験ボランティアやサポーターの受け入れを積極的に進めて人員体制の増強を図る。	教室見学等を通して4名の体験ボランティアが参加し、4名とも助手やサポーターとして参加を申し込んだ。	さくら教室の活動内容を区報・HP等を利用し広く周知することで、新規スタッフの獲得を図る。
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
	障がい者に対する生涯学習事業を広く含む

況（要旨） 議会質問状

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-07	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	あらかわ青年大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	高安	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-06-02	あらかわ青年大会					
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	38 年度	根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青年活動等を活性化するために、青年たちが交流の場及び青年リーダーの育成の場として実施する「あらかわ青年大会」の事業実施を支援する。						
対象者等	あらかわ青年大会実行委員会（荒川区青年団体連合会加盟団体及び構成員が中心となって構成） ※大会参加（ステージ鑑賞など）は、区民一般						
内容	<p>あらかわ青年大会実行委員会が、青年たちの交流や地域の活性化を目的として実施する事業に対して、事業費の全部または一部を補助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25～26年度（3月）…「アリストックvol. 1、vol. 2」として、あらかわ遊園アリスの広場において、各種音楽団体等が演奏を行う野音祭を実施した。 平成27年度（3月）…「アリストックvol. 3」区内在住・在勤の出演者を公募し8団体が出演した。出店者による「Y(焼きそば)-1グランプリ」を実施した。 平成28年度（3月）…「アリストックvol. 4」では、公募を含む出演16団体、出店7団体が参加した。 平成29年度（3月）…「アリストックvol. 5」では、公募を含む出演23団体、出店7団体が参加した。 平成30年度（1月）…「アリストックvol. 6」では、公募を含む出演16団体、出店9団体が参加した。 						
経過	<p>平成21～22年度 「あらかわ路まつり」会場：尾久小及び熊野前商店街（平成23・24年度は未実施）</p> <p>平成25年度 「アリストック」会場：あらかわ遊園・アリスの広場</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒青連加盟団体に限らず、区内等で活動している音楽団体による音楽祭形式で実施。 前回参加者が実行委員に加わり、区内文化団体（新開太鼓）が出演した。 <p>平成26年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 出演者の公募を開始した。 <p>平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本アームレスリング協会の特別協賛を得て、アームレスリング大会を開催。 <p>平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 出演23団体、出店7団体と過去最大規模。七中PTAが実行委員として参加。 <p>平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川商業高校ボランティア部が参加。荒天のため、七中に会場変更。 <p>平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> あらかわ遊園改修工事に伴い、サンパール荒川及び実のなる木公園に会場を変更した。 荒青連50周年記念セレモニーを青年大会内で開催した。 						
必要性	荒川区の青年たちが一堂に会し自分たちで企画するイベントとして、青年間の交流が図れる貴重な機会であり、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するためにも必要である。						
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み	
	①	実行委員数	12	16	24	25	25
	②	公募団体数／出演団体数	11/16	12/23	9/16	10/18	20
③	来場者数	4,661	460	640	800	1,000	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	青年の交流の場の提供及び新たな青年を育成する場、また、区民が楽しめるイベントを実施する事業として、継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		950	950	950	950	950	950	950
決算額（元年度は見込み）		950	950	950	950	950	950	950
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
参加者数		700	1,200	2,965	4,661	460	640	1,000
出演団体数		9	12	12	16	23	16	20

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	2,039	2,364	325	地方税	0	0	0	
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	950	950	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	202	127	▲75	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲3,191	▲3,441	▲250	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	3,191	3,441	250	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲3,191	▲3,441	▲250	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲3,191	▲3,441	▲250		

備考 行政費用では、補助事業のため補助費等に950千円かかっている。

問題点・課題
 ①より効果的な運営を行うために実行委員会の体制を強化する必要がある。
 ②区内の青年活動の活性化につながるような実施方法を検討していく必要がある。
 ③実行委員会への参加者及び青年大会への来場者が増加するよう、効果的なPRを行う必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒川区青年団体連合会や区とつながりを持って活動している出演・出店者が継続的に参加できるように支援する。	昨年度の参加者や関係する地域団体にも実行委員会への参加を呼びかけた結果、実行委員数が増加した。	実行委員の公募を行うなど体制強化につながる支援を今後も継続する。
②	青年活動の活性化に繋がる実施方法を検討する。	青年大会の参加者が荒川区青年団体連合会に加盟する等、青年活動の活性化に繋がった。	青年大会の出演者・出展者が青年活動に興味を持つような実施方法を検討していく。
③	より多くの青年団体を発掘するため、区内関係者にも出演者募集のPRを依頼するなど、新規参加者確保を支援する。	関係する地域団体にもPRの協力を依頼した他、会場となるサンパール荒川の広報誌等でもPRを行った。	荒川区青年団体連合会が参加するイベントの中で青年大会をPRするなど周知を更に強化する。

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会要旨
 平成26年度 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-08	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	成人の日のつどい	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	宇津野	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-06-03	成人の日のつどい					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 29 年度	根拠	「成人の日の行事について」文部事務次官通達（昭和31年12月10日）				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	新成人の門出を祝福すると共に、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。 また、実行委員となった新成人には、地域への愛着を強め、地域活動への関心を深めるきっかけとなるようにする。						
対象者等	<平成30年度>平成10年4月2日～平成11年4月1日生まれの方 <令和元年度>平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれの方						
内容	平成30年度 平成31年1月14日（月・祝） 12：00～14：30 【内容】 第1部 記念式典 国歌斉唱、第二峡田小学校児童による合唱、主催者挨拶、成人の誓い 来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介 第2部 フリップ上げ、恩師からのビデオレター上映 第3部 ミニパーティー、北海道胆振東部地震災害義援金の募金、メモリアルボード作成 【会場】 サンパール荒川 第1・2部：大ホール 第3部：小ホール・集会室 令和元年度予定 令和2年1月13日（月・祝） 12：00～13：30 サンパール荒川						
経過	昭和55年度 「成人の日のつどい実行委員会（企画・運営スタッフ会）」を新成人を募り設置。記念品の選定や、案内ハガキのデザイン、2部・3部の企画、運営を担当。 平成22年度 司会を実行委員ではなくセミプロに依頼し、式典の厳粛な実施が可能になった。 平成23年度 成人式を終えた実行委員にアドバイザーとして次年度以降の実行委員会に参加を促した。 平成27年度 サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場をラングウッドに変更したため、式典開始時間を例年より30分早め、11：30式典開始とした。 平成28年度 実施日について、前日（日曜日）開催を検討したが、対象者のアンケート等の結果を踏まえ、今後も原則として成人の日（月・祝）に実施することとした。 平成29年度 ホールのオーケストラピットを使用しないことにより、使用できる客席を増やすと共に、ホワイエにイスを設置し、より多くの新成人が参加できるよう対策を行った。 平成30年度 外国籍対象者への対応として、案内掲示の英語表記、翻訳タブレットの設置を行った。						
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すほか、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するために、充実する必要がある。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） <平成30年度> 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区選挙管理委員会 協力：新成人実行委員12名・アドバイザー13名、青少年委員35名他						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 公募数／実行委員数	5／12	6／13	7／12	7／14	12／20	27年度は公募数0名
	② 実行委員会参加率	83	65	62	70	75	参加延べ数／実行委員数*回数
③ アドバイザー数	13	18	13	15	20	実行委員会に協力（出席）した、過去の実行委員経験者数	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務、責任・自覚を促す事業として継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		2,973	2,856	3,898	3,002	3,016	3,241	3,330
決算額（元年度は見込み）		2,374	2,433	3,417	2,610	2,676	2,665	3,330
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
対象者（人）		1,735	1,879	1,834	1,991	1,995	1,949	2,071
参加者（人）		888	935	919	996	960	867	975
参加率（％）		51	50	50.1	50	48.1	44.5	47
記念品		ステンレスマグカップ	木製ボールペン・シャーペン	木製印鑑ケース	本革製名刺入れ	真空断熱タンブラー	多機能ボールペン	未定
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	46	報償費	謝礼	64	報償費	謝礼	144
需要費	記念品等	2,185	需用費	記念品等	2,142	需用費	記念品等	2,528
役務費	吊看板・立看板	98	役務費	吊看板・立看板	98	役務費	吊看板・立看板等	231
委託料	警備委託料	73	委託料	警備委託料	141	委託料	警備委託料	140
使用料等	会場使用料等	274	使用料等	会場使用料等	227	使用料等	会場使用料等	287

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	5,872	7,346	1,474	地方税	0	0	0
	物件費	2,630	2,601	▲29	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	46	64	18	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	580	393	▲187	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲9,128	▲10,404	▲1,276
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	9,128	10,404	1,276	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲9,128	▲10,404	▲1,276
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲9,128	▲10,404	▲1,276	

備考 行政費用では、物件費が高くなっている。内訳としては、記念品代1,339千円その他、会場警備委託145千円等である。

- 問題点・課題
- ① 祝賀の雰囲気を崩さないような警備体制や、新成人の誘導方法や導線等、改めて見直す必要がある。
 - ② 新成人の実行委員が、より意欲的に関わっていただけるような体制を検討する必要がある。
 - ③ 民法改正に伴い、成人年齢が20歳から18歳へと引き下げられるため、実施方法について検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き円滑な事業運営ができるよう、参加者の誘導方法や会場の警備について関係機関と検討する。	職員配置や警備委託業者の見直し、警察との綿密な打ち合わせを重ねた結果、円滑な運営が可能となった。	より効果的な実施、運営ができるよう、開場時間の調整や式典の構成等、全体的な流れを見直す。
②	意欲的な若い世代が、区政に関わり活躍していただけるよう、引き続き、地域活動や地域団体の周知を行う。	実行委員募集について記載した案内はがきを全対象者に送付した。公募数が増え、外国籍の方も実行委員会に参加した。	実行委員等の意欲的な若者が一層区政に関心を持ち、活躍していただけるよう、実行委員会の実施方法を検討する。
③	法改正に伴う成人年齢引き下げについて、他自治体の動向について調査研究をし、対応策について検討する。	他自治体の調査研究を行いつつ、多様な実施方法を想定し検討をした。	国、他自治体の動向調査に加え、新成人、関係団体等から広く意見を聞き、施行年に向け慎重に検討を進める。

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
議会の要旨	【30年度】実行委員会形式 17区
議会の要旨	平成26年度 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について 平成29年、30年度 予算特別委員会 日曜日開催について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-09	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	吹奏楽コンサート	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	高安	内線	3355			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-06-04	吹奏楽コンサート						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	52 年度	根拠	無し				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	区内の小・中・高校等の吹奏楽部や、卒業後も活動を続けている青少年に、日頃の練習成果の発表の場を提供するとともに、区民が身近で音楽文化に触れる機会を提供する。							
対象者等	青少年及び一般区民							
内容	平成30年度 1 主催 吹奏楽のつどい実行委員会・荒川区 2 実施日 31年3月10日（日） 3 場所 サンパール荒川 4 参加団体 11団体 ① 社会人団体：4団体 ② 高等専門学校：1団体 ③ 高等学校吹奏楽部：1団体 ④ 中学校吹奏楽部：3団体 ⑤ 小学校金管バンド：2団体							
経過	昭和56年度 第1回「荒川区民における吹奏楽の夕べ」を自主事業として実施 3団体参加 昭和60年度 教育委員会の主催で「荒川区民における吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 平成6年度 教育委員会と荒川区に吹奏楽を育てる会主催で実施 14団体参加 平成19年度 「吹奏楽のつどい実行委員会」の主催となる 平成22年度 東日本大震災のため中止 平成27年度 サンパール荒川の大規模改修のため、日暮里サニーホールに会場変更（8団体参加） 峡田小・尾久六小が出場辞退、荒川ウインドアンサンブルはスタッフとしてのみ参加 平成28年度 峡田小は再度参加したが、尾久六小が出演を辞退。 荒川四中と、北豊島中学・高校が新規で参加（11団体参加） 平成29年度 荒川ウインドアンサンブルが再出場（12団体参加） 平成30年度 北豊島中学・高校が学校行事と重なり参加辞退（11団体参加）							
必要性	区内の吹奏楽団体に交流・成果発表の機会を提供することにより、荒川区の文化向上を図っており、第三次荒川区生涯推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するためにも必要である。							
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値（8年度）
	①	出演団体数	11	12	11	12	12	
	②	来場者数（延べ）	935	936	936	1,000	1,000	
③	満足度（%）	78.6	85	88	89	90	アンケート調査による	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	青少年が交流しながら、音楽活動の成果を発表する場、および区民が音楽をとおして芸術文化に触れることのできる場として、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		598	610	587	608	608	614	616
決算額（元年度は見込み）		455	461	361	487	411	411	616
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	出演団体数	11	11	8	11	12	11	12
	入場者数	830	880	700	935	936	936	1,000
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	ポスター等	11	需用費	ポスターなど	16	需用費	ポスターなど	19
委託料	舞台設営委託	0	委託料	舞台設営委託	0	委託料	舞台設営委託	69
使用料等	会場費・トラック等	400	使用料等	会場費・トラック等	395	使用料等	会場費・トラック等	528

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	1,305	591	▲ 714	地方税	0	0	0	
	物件費	411	411	0	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	129	32	▲ 97	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,845	▲ 1,034	811	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	1,845	1,034	▲ 811	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 1,845	▲ 1,034	811	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 1,845	▲ 1,034	811		

備考 行政費用では、使用料等として、物件費がかかっている。物件費の内訳としては、会場・付帯設備費181千円、トラック代114千円、打楽器レンタル代99千円等がかかっている。

- 問題点・課題
- ①小学生から社会人まで多世代にわたる団体が関わる吹奏楽のつどいが円滑に運営できるよう支援する。
 - ②来場者が音楽文化に手軽に親しむことができるよう、実施内容やプログラム等の充実を図っていく。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	実行委員会での話し合いをスムーズに進めるため、日程調整や議事録の作成等を行う。	実行委員会の話し合いがスムーズに進むよう、日程調整や議事録の作成等の支援を行った。	実行委員同士の話し合いを円滑にすすめるため、日程調整や議事録の作成等の支援を行う。
②	出演数は近年11~12団体と適度な数で推移しており、各団体が継続して参加できるよう支援していく。	前年度参加した団体に再度参加を依頼し、継続して参加できるよう支援した。	前回参加できなかった学校にも引き続き参加依頼を行う等、内容やプログラム等の充実を図る。
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
議会議況(要旨)	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-10	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	荒川区文化祭	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	高安	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-10-01	文化祭					
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 27 年度	根拠	無し				
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術文化の振興				
目的	区民が日頃研鑽を重ねている様々な文化活動の成果を、広く区民に発表する場を提供すると共に、更なる活動意欲の向上、文化の向上を図る。						
対象者等	各団体会員と区民一般						
内容	<p>各団体（平成30年度は20団体）が、文化の日を中心に大会、展示会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本舞踊大会（荒川区日本舞踊連盟） ○写真展（全荒川写真連盟） ○華道展・茶席（荒川区華道茶道文化会） ○囲碁大会（荒川区囲碁連盟） ○菊花展（荒川菊花会） ○詩吟と剣舞の大会（荒川区吟剣詩舞道連盟） ○ソーシャルダンス大会（荒川区ソーシャルダンス連盟） ○美術展（荒川区美術連盟） ○邦楽大会（荒川区邦楽連盟） ○歌謡大会（荒川区歌謡協会） ○区民音楽会（荒川区音楽連盟） ○謡曲大会（荒川区謡曲連盟） ○俳句展示会（荒川区俳句連盟） ○民謡大会（荒川区民謡協会） ○将棋大会（荒川区将棋協会） ○盤景展（荒川盤景会） ○書道展（荒川区書道連盟） ○大太鼓盆踊り大会（荒川区大太鼓連盟） ○バレエコンサート（荒川区洋舞連盟） ○さつき紅葉実物展（荒川区皐月会） 						
経過	<p>平成元年度 21団体参加 平成15年度 23団体参加 荒川区皐月会加盟 平成17年度 22団体参加 荒川区美術刀剣連盟退会（17年5月） 平成23年度 荒川区文化祭60周年記念行事（式典・子ども向け事業）実施 平成26年度 21団体参加 荒川史談会退会（26年5月）・俳句大会中止 平成27年度 22団体参加 将棋協会加盟（27年5月） 俳句展示会に「中学生の部」を新設・子ども向け俳句教室を開始 平成28年度 21団体参加 荒川区民踊連盟脱退（平成28年5月） 平成30年度 20団体参加 荒川盆栽山野草会脱退（平成30年5月） ※菊花会の解散が平成30年11月に決定。令和元年度の文化団体連盟総会にて、連盟からの脱退が正式決定された。</p>						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動の成果を発表することで、活動をさらに充実させる機会となっており、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」のためにも必要である。						
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 直営） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員） 主催：荒川区・荒川区文化団体連盟 主管：連盟加盟各団体						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 出演・参加・観覧者数	17,048	16,459	13,008	15,000	21,000	
	② 大会&展示会数	21	21	20	19	25	H28民踊連盟脱退 H30盆栽会脱退
③ 参加者・観覧者満足度	-	-	-	80	80	31年度からアンケートを実施予定	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
推進	推進	文化団体連盟が中心となり、区民の文化振興に寄与しているため、区としても推進していく。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		6,029	6,146	5,608	6,015	6,573	6,198	6,209
決算額（元年度は見込み）		5,446	5,477	5,063	5,331	5,534	5,425	6,209
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	出演・参加者数	2,657	1,913	2,007	1,815	1,812	1,634	2,000
	出品者数	1,550	1,678	1,080	1,086	1,004	1,032	1,200
	観覧者数	15,589	16,573	14,185	14,147	13,643	10,342	15,000
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	258	報償費	講師謝礼	258	報償費	講師謝礼	322
需用費	プログラム等	837	需用費	プログラム等	558	需用費	プログラム等	760
役務費	筆耕料・保険料等	349	役務費	筆耕料・保険料等	333	役務費	筆耕料・保険料等	403
委託料	会場設営委託	932	委託料	会場設営委託	1,013	委託料	会場設営委託	1,130
使用料等	会場使用料等	3,158	使用料等	会場使用料等	3,263	使用料等	会場使用料等	3,594

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	行政収入	勘定科目		29年度	30年度	差額
	給与関係費		6,280	4,559	▲ 1,721		地方税		0	0	0
物件費		5,268	5,159	▲ 109	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		0	0	0		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		266	266	0	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		0	0	0		
賞与・退職給与引当金繰入額		621	244	▲ 377	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 12,435	▲ 10,228	2,207		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		12,435	10,228	▲ 2,207	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 12,435	▲ 10,228	2,207		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 12,435	▲ 10,228	2,207		

備考

行政費用では、物件費が多くかかっている。物件費の主な内訳は、会場使用料3,123千円、会場設営委託料1,013千円などである。

問題点・課題

参加者や観覧者が固定化し、高齢化している傾向がある。文化祭をきっかけに多様な世代の区民が日本文化に興味を持つことができるよう、広く事業の周知をする必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	SNSや荒川区内でのチラシ掲示に加え、民間コミュニティ誌への記事掲載など、周知の場所を増やしていく。	民間コミュニティ誌に掲載される等、周知の場所を増やすことができた。また、他の自治体と事業における情報交換を実施した。	他の自治体と引き続き情報共有を行い、得た情報を参考にしながら課題解決策を検討する。
②	伝統文化親子教室・子ども文化体験フェスタ参加者に対して文化祭への参加を促進する。	伝統文化親子教室や子ども文化体験フェスタ参加者が文化祭へも参加するという流れを構築しつつある。	引き続き、他の事業から文化祭への参加を促すという流れを推進、整備する。
③			
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)		
議会議事録(要旨)	区の主催・後援による文化発表会等を含む		

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-11	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事																																																						
事務事業名	文化団体連盟補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑																																																							
		担当者名	高安	内線	3355																																																							
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-10-02	文化団体連盟補助																																																										
	01-10-04	文化活動推進費																																																										
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業																																																							
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 39 年度	根拠	荒川区補助金交付規則																																																									
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等	荒川区文化団体補助金交付要綱																																																									
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画																																																								
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市																																																									
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進																																																									
	施策	01	芸術文化の振興																																																									
目的	区民の文化向上のために、文化活動の中心的な役割を果たしている文化団体を統括する団体（荒川区文化団体連盟）が実施する事業に対し支援する。																																																											
対象者等	荒川区文化団体連盟 加盟団体（19団体）																																																											
内容	<p>【文化振興事業補助金】 目的を達成するため、加盟文化団体相互の親睦と情報の交換や、文化祭等、行事への参加または協力などの事業に対して補助する。 ◆加盟団体 19団体（令和元年度）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">○荒川区日本舞踊連盟</td> <td style="width: 33%;">○荒川区音楽連盟</td> <td style="width: 33%;">○全荒川写真連盟</td> <td style="width: 33%;">○荒川区謡曲連盟</td> </tr> <tr> <td>○荒川区華道茶道文化会</td> <td>○荒川区俳句連盟</td> <td>○荒川区囲碁連盟</td> <td>○荒川区民謡協会</td> </tr> <tr> <td>○荒川区吟剣詩舞道連盟</td> <td>○荒川盤景会</td> <td>○荒川区ソーシャルダンス連盟</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○荒川区書道連盟</td> <td>○荒川区美術連盟</td> <td>○荒川区大太鼓連盟</td> <td>○荒川区邦楽連盟</td> </tr> <tr> <td>○荒川区洋舞連盟</td> <td>○荒川区歌謡協会</td> <td>○荒川区盆栽会</td> <td>○荒川区将棋協会</td> </tr> </table> <p>【子ども文化体験フェスタ】（平成29年度～） 次世代への文化の継承等のため、子ども文化体験フェスタ事業に対して補助する。</p>						○荒川区日本舞踊連盟	○荒川区音楽連盟	○全荒川写真連盟	○荒川区謡曲連盟	○荒川区華道茶道文化会	○荒川区俳句連盟	○荒川区囲碁連盟	○荒川区民謡協会	○荒川区吟剣詩舞道連盟	○荒川盤景会	○荒川区ソーシャルダンス連盟		○荒川区書道連盟	○荒川区美術連盟	○荒川区大太鼓連盟	○荒川区邦楽連盟	○荒川区洋舞連盟	○荒川区歌謡協会	○荒川区盆栽会	○荒川区将棋協会																																		
○荒川区日本舞踊連盟	○荒川区音楽連盟	○全荒川写真連盟	○荒川区謡曲連盟																																																									
○荒川区華道茶道文化会	○荒川区俳句連盟	○荒川区囲碁連盟	○荒川区民謡協会																																																									
○荒川区吟剣詩舞道連盟	○荒川盤景会	○荒川区ソーシャルダンス連盟																																																										
○荒川区書道連盟	○荒川区美術連盟	○荒川区大太鼓連盟	○荒川区邦楽連盟																																																									
○荒川区洋舞連盟	○荒川区歌謡協会	○荒川区盆栽会	○荒川区将棋協会																																																									
経過	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">平成元年度</td> <td style="width: 20%;">21団体加盟</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>平成15年度</td> <td>23団体加盟</td> <td>荒川区皐月会</td> <td>加盟</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成17年度</td> <td>22団体加盟</td> <td>荒川区美術刀剣連盟</td> <td>脱退</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>21団体加盟</td> <td>荒川史談会</td> <td>脱退</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>22団体加盟</td> <td>荒川区将棋協会</td> <td>加盟</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>21団体加盟</td> <td>荒川区民踊連盟</td> <td>脱退</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>21団体加盟</td> <td colspan="4">芸術文化振興基金活用事業として、子ども文化体験フェスタ開催</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>20団体加盟</td> <td>荒川盆栽山野草会</td> <td>脱退</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>19団体加盟</td> <td>荒川菊花会</td> <td>脱退</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						平成元年度	21団体加盟					平成15年度	23団体加盟	荒川区皐月会	加盟			平成17年度	22団体加盟	荒川区美術刀剣連盟	脱退			平成26年度	21団体加盟	荒川史談会	脱退			平成27年度	22団体加盟	荒川区将棋協会	加盟			平成28年度	21団体加盟	荒川区民踊連盟	脱退			平成29年度	21団体加盟	芸術文化振興基金活用事業として、子ども文化体験フェスタ開催				平成30年度	20団体加盟	荒川盆栽山野草会	脱退			令和元年度	19団体加盟	荒川菊花会	脱退		
平成元年度	21団体加盟																																																											
平成15年度	23団体加盟	荒川区皐月会	加盟																																																									
平成17年度	22団体加盟	荒川区美術刀剣連盟	脱退																																																									
平成26年度	21団体加盟	荒川史談会	脱退																																																									
平成27年度	22団体加盟	荒川区将棋協会	加盟																																																									
平成28年度	21団体加盟	荒川区民踊連盟	脱退																																																									
平成29年度	21団体加盟	芸術文化振興基金活用事業として、子ども文化体験フェスタ開催																																																										
平成30年度	20団体加盟	荒川盆栽山野草会	脱退																																																									
令和元年度	19団体加盟	荒川菊花会	脱退																																																									
必要性	第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するためにも必要である。																																																											
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）																																																											
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明																																																					
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)																																																				
	①	連盟加盟団体数	21	21	20	19	25	H28民踊連盟脱退、H30盆栽山野草会脱退、R01菊花会脱退																																																				
	②	子ども文化体験フェスタ満足度(%)	-	78.3	86.2	88	90	参加者アンケートで「楽しかった・まあまあ楽しかった」と回答																																																				
③																																																												
事務事業の分類		分類についての説明・意見等																																																										
元年度	2年度																																																											
継続	継続	文化団体への支援が区民の文化振興へと繋がるため、継続して支援を行う。																																																										

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		1,980	1,980	1,980	1,980	4,331	4,820	4,730
決算額（元年度は見込み）		1,980	1,890	1,980	1,890	4,330	4,730	4,730
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	団体数	22	21	22	21	21	20	19
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化振興補助金	1,890	負担金補助等	文化振興補助金	1,800	負担金補助等	文化振興補助金	1,800
賃金	文化事業繁忙期臨時職員	440	賃金	文化事業繁忙期臨時職員	930	賃金	文化事業繁忙期臨時職員	930
負担金補助等	荒川区子ども文化体験フェスタ	2,000	負担金補助等	荒川区子ども文化体験フェスタ	2,000	負担金補助等	荒川区子ども文化体験フェスタ	2,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	897	507	▲ 390	地方税	0	0	0	
	物件費	440	930	490	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	3,890	3,800	▲ 90	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	89	27	▲ 62	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,316	▲ 5,264	52	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	5,316	5,264	▲ 52	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 5,316	▲ 5,264	52	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 5,316	▲ 5,264	52		

備考 行政費用では、補助事業のため、補助費等に3,800千円かかっている。また、臨時職員賃金として930千円の物件費がかかっている。

問題点・課題 高齢化に伴い、団体数及び団体会員数が減少している。そのため、新会員の加入促進を図り、各団体の活性化を促す必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	子ども文化体験フェスタをはじめとする各種イベントで引き続き各文化団体のPRを行う。	子ども文化体験フェスタや文化祭などで各団体のPRポストカードを作成し、来場者へ配付した。	文化祭や子ども文化体験フェスタに加え、ACCや他部署が実施する文化事業とも連携して各団体の周知を図る。
②	伝統文化親子教室の拡充等、今後も文化振興に向けた取り組みを支援していく。	伝統文化親子教室の拡充や、文化体験フェスタ等により、子どもが参加できる取組を拡充させた。	引き続き、伝統文化親子教室や子ども文化体験フェスタなど子どもやその親が伝統文化に触れる機会を提供していく。
③			
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)		
状況(要旨)	文化団体等への補助等を含む		
議会質問状			

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-12	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事									
事務事業名	文化講座補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑										
		担当者名	高安	内線	3355										
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-10-03	文化講座													
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業										
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 元年度	根拠	荒川区補助金交付規則、荒川区町屋文化センター文化講座補助金交付要綱												
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等												
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画											
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市												
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進												
	施策	01	芸術文化の振興												
目的	区民が安価で参加できる講座を安定して実施するため、荒川区文化団体連盟が主催する文化講座に対し支援する。														
対象者等	荒川区文化団体連盟														
内容	<p>【内容】文化団体連盟の自主事業である文化総合講座に対して補助する。</p> <p>【会場】町屋文化センター</p> <p>【実施方法】4月期、7月期、10月期、1月期の3ヵ月を単位として受講生を募集する。</p> <p>【補助対象経費（平成30年度実績）】 会場使用料、チラシ印刷、チラシ折込、受講証印刷、文化総合講座学習成果発表会、インターネット代PR経費</p> <p>【主な講座】（平成30年度）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>ジュニアアート 31/160</td> <td>囲碁 153/160</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土曜歌謡 116/120</td> <td>俳句 118/120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水彩画 95/120</td> <td>実用文字A 119/160</td> <td style="text-align: right;">〔受講者（人）／定員（人）〕</td> </tr> </table>						ジュニアアート 31/160	囲碁 153/160		土曜歌謡 116/120	俳句 118/120		水彩画 95/120	実用文字A 119/160	〔受講者（人）／定員（人）〕
ジュニアアート 31/160	囲碁 153/160														
土曜歌謡 116/120	俳句 118/120														
水彩画 95/120	実用文字A 119/160	〔受講者（人）／定員（人）〕													
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年1月～3月まで、町屋文化センター開設に合わせて開講。当初は、講師が教室運営を行った。 ・平成元年4月～ 運営委員会を組織し、教室運営を行った。 ・平成13年度 会場使用料を全額補助から半額補助に変更。それに伴い、受講料を100円値上げした。 ・平成14年度 ジュニア向け講座として7月より囲碁、10月より書道・美術を開講 ・平成19年度 区制75周年に伴い、子ども・高齢者対象の事業やボランティア活動を実施している団体への支援を行った。 ・平成22年度 震災により学習発表会を中止 ・平成23年度 震災の影響により5月まで夜間講座を休止 ・平成26年度 ギター・声楽講座などを廃止し、合唱・ピアノ講座を新設 ・平成27年度 社交ダンス講座を新設、囲碁（子ども・大人入門）を隔週から毎週開催とした。 														
必要性	本事業は、地域の人材を活用し区民に様々な生涯学習の機会を与えるとともに、日本の伝統文化の継承も担っており、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するためにも必要がある。														
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 直営） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員） 文化団体連盟による運営委員会方式 運営委員長：鏑本 藤嘉津（荒川区邦楽連盟） 運営委員数：6名（委員長1名、会計2名、総務2名、書記1名）														
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明								
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)							
	①	受講者数	1,906	1,938	1,860	2,000	2,500	受講者数							
	②	受講率（%）	60	62	60	65	70	受講生／定員							
③															
事務事業の分類		分類についての説明・意見等													
元年度	2年度														
継続	継続	区民の文化活動を推進するため、多様な講座を継続して実施する。													

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353
決算額（元年度は見込み）		3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
講座数		29	29	30	30	30	30	30
受講者数		1,945	2,120	1,938	1,906	1,938	1,860	2000
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	897	929	32	地方税	0	0	0
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	3,353	3,353	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	89	50	▲ 39	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 4,339	▲ 4,332	7
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	4,339	4,332	▲ 7	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 4,339	▲ 4,332	7
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 4,339	▲ 4,332	7	

備考

行政費用では、補助事業のため補助費等に3,353千円かかっている。

問題点・課題

成人向けの講座に比べ、子ども向けの講座の参加者数が少ない。あらゆる世代の区民が日本の文化に興味を持ち参加できるように、子ども向けの講座のPR方法を検討するとともに、講座内容の検討も引き続き行う必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	講座の効果的な周知方法等を文化団体連盟と協議する。	チラシの配布方法をはじめとした周知方法について、文化団体連盟と協議した。	既存のチラシ配布先を見直すと共に、子ども文化体験フェスタ等、他事業でも周知を行う。
②	様々な世代の区民が参加しやすい内容・日時の設定等を、四者協議会等で検討する。	受講生の申込の少ない講座については、日時や内容、講師を検討し、次年度の企画の参考とした。	若年層への周知効果が高いとされるSNSを活用し、引き続き講座のPRに取り組む。
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
議会質問状(要旨)	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-13	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	女性団体補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	水谷	内線	3352			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-11-01	女性団体補助						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成	令和 39 年度	根拠	荒川区補助金等交付規則				
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	女性団体が行う生涯学習関係事業を奨励し、団体の育成と地域活動を活発化するための支援を行う。							
対象者等	女性団体							
内容	荒川区女性団体の会加盟団体のうち5団体の活動に対して補助を行う							
	<補助団体> 平成31年4月現在 （団体名） （会員数） 三河島母の会 80名 尾久母の会 300名 日暮里母の会 55名 荒川区婦人学級連絡会 7名 荒川区更生保護女性会 541名							
経過	<補助団体数> 平成12年度～ 6団体（○荒川区女性団体の会が文化青少年課へ移管された） 平成16年度～ 6団体（○荒川区更生保護婦人会が荒川区更生保護女性会に団体名変更） 平成23年度～ 5団体（○南千住母の会が休会）							
必要性	女性団体が行う地域事業への支援は、地域の交流を深め、生涯学習の発展のために重要であり、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域活動団体への支援」を推進するためにも必要である。							
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	補助団体数	5	5	5	5	5	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	地域活動や生涯学習の推進に寄与しており、継続した支援を行う。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		500	500	500	500	500	500	500
決算額（元年度は見込み）		500	500	500	500	500	500	500
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	補助団体数	5	5	5	5	5	5	5
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	1,631	1,689	58	地方税	0	0	0	
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	500	500	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	161	90	▲71	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲2,292	▲2,279	13	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	2,292	2,279	▲13	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲2,292	▲2,279	13	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲2,292	▲2,279	13		

備考

行政費用では、補助事業のため、補助費等に500千円かかっている。

問題点・課題

各団体ともに会員の高齢化が進む中、会員同士が交流しながら充実した生きがいを持つことが出来、豊かな生涯学習活動が継続出来るよう支援する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	活動内容および収支の見直しなどを含め、活動を充実させることができるよう支援していく。	必要に応じ区事業や施設の紹介を行い、会員数の維持が難しい中でも豊かな活動が出来るよう支援し生涯学習活動の充実を図った。	豊かな地域交流や生涯学習活動のため、継続して支援を行う。
②			
③			

他区の実況	(実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区)
	千代田区、港区が団体補助または事業補助を実施。
議会議決要旨	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-14	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	青年団体連合会補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	高安	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-11-02	青年団体連合会補助					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	48 年度	根拠	荒川区補助金交付金規則			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青年団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成のために、自主的な団体活動を支援する。						
対象者等	荒川区青年団体連合会						
内容	<p>青年団体の連合体である荒川区青年団体連合会の活動に対し、補助する。</p> <p>【青年団体連合会加盟団体】 7団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと荒川ふれあい広場 ・ユースブンタクローズクラブ ・Mu-Kyoca ・Dreamsあらかわバンド会 ・チャレンジクラブ荒川 ・荒川コミカレ6 ・中條ココリコ隊 <p>【活動状況】（22～23年度 活動なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会、理事会、あらかわ青年大会実行委員会等 ・交流会：加盟団体の交流と新規加盟の促進を目的に、フットサル大会やボーリング大会を実施 ・研修会：青年団体のリーダー等としての知識・資質を向上させ、自覚を持つきっかけとなるよう区内の青年同士や他自治体の青年団体等との交流と、資質・技術向上のための研修を実施 29年度は活動縮小のため、30年度は50周年記念事業実施のため不参加 ・青年大会：主管団体として実施（詳細は「あらかわ青年大会」のシート参照） 						
経過	<p>昭和43年度 荒川区青年団体連合会結成（40団体・400人参加）…都内で8番目の青年団体連合体</p> <p>平成10年度 結成30周年記念事業として「フレンドシップ神津島」を実施</p> <p>平成20年度 結成40周年を迎えた</p> <p>平成23年度 団体の活動継続が困難になり、「あらかわ青年大会」未実施（25年度再開）。研修会を「成人の日のつどい実行委員会」による区内青年の研修として実施。</p> <p>平成25年度 「あらかわ青年大会」再開（荒川遊園アリスの広場にて「アリストック」として開催）</p> <p>平成26年度 研修を自主事業として再開（日本青年館で実施された研修に参加）</p> <p>平成27年度 中国青年団と静岡青年団等の交流事業に参加</p> <p>平成28年度 石川県青年団協議会の事業に参加、11月「チャレンジクラブ荒川」加盟（計6団体）</p> <p>平成29年度 結成50周年。荒川区商連青年部休会、6月「荒川コミカレ6」加盟（計6団体）</p> <p>平成30年度 結成50周年祝賀会開催。6月「中條ココリコ隊」加盟（計7団体）</p>						
必要性	特別区唯一の青年団体である。自主財源を安定して確保できるようになるまで活動を活性化していくため、また、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するため必要である。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み	
	①	加盟団体数	6	6	7	7	8
	②	研修参加人数	2	0	0	2	2
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	青年団体連合会を支援することにより、青年による地域活動の発展に寄与していることから、継続した支援を行う。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		257	257	257	257	257	257	257
決算額（元年度は見込み）		257	257	257	257	257	257	257
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
加盟団体数		5	5	5	6	6	7	8
交流自治体		なし	研修（全国）	中国、静岡、愛知、岐阜	石川県	なし	なし	
研修会参加者数		0	3	3	2	0	0	2

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	489	1,098	609	地方税	0	0	0
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	257	257	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	48	59	11	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 794	▲ 1,414	▲ 620
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	794	1,414	620	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 794	▲ 1,414	▲ 620
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 794	▲ 1,414	▲ 620	

備考 行政費用では、補助事業のため補助費等に257千円かかっている。

問題点・課題 ①余暇活動の多様化などにより青年が団体に活動することが少なくなっており、荒川区青年団体連合会が区内青年層に知られていない。
②恒常的に活動に携わっている人員や加盟団体数が慢性的に不足しているため、活動の活性化につながる支援が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	他事業の参加者に荒川区青年団体連合会をPRするなどして、区内青年層の加入促進を支援する。	前年度青年大会に出店者として参加した団体が、新たに青年団体として加盟した。	荒川区青年団体連合会の活動をPRし新規加盟団体を掘り起こせるよう、活動の場の情報提供等を行う。
②	加盟団体の活動の活性化や青年育成のため、リーダー研修会等の情報を提供し参加を促す。	荒青連50周年記念誌「継続」の作成及び50周年記念祝賀会の開催のための支援を行った。	リーダー研修会をはじめ青年活動の活性化につながる指導・助言を行う。
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会質問状 平成26年度 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-15	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	少年団体指導者連絡会補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	宇津野	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-11-03	少年団体指導者連絡会補助					
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 48 年度	根拠	荒川区補助金等交付規則				
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	少年団体指導者連絡会へ支援を行うことにより、少年を対象にした事業の安定的な実施と、少年団体の健全な育成を図る。						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会						
内容	<p>【補助団体】 荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」）</p> <p>【加盟団体】 10団体</p> <p style="margin-left: 20px;">○南千住一丁目東町会子ども会 ○南千協和子ども会 ○荒川交通少年団荒川地区隊</p> <p style="margin-left: 20px;">○レインボー子ども会 ○ウエスタンエイト子ども会</p> <p style="margin-left: 20px;">○尾久地区青少年団体連合会 ○ユーセブン・タクローズクラブ・タクローズ子ども会</p> <p style="margin-left: 20px;">○尾久交通少年団 ○南千住中央町会 ○尾久消防少年団</p> <p>【特別団体】 3団体</p> <p style="margin-left: 20px;">○リバーパーク汐入町会 ○天王太鼓つくも会 ○南千住協和会</p> <p>【個人会員】 135名</p> <p>【シニアリーダー】 18名</p>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年 荒川区少年団体指導者連絡会設立 ・平成17年2月 荒川区少年団体指導者連絡会40周年記念式典・祝賀会開催 ・平成22年3月 荒川区少年団体指導者連絡会45周年記念式典・祝賀会開催 ・平成26年 荒川区少年団体指導者連絡会50周年記念事業実施（8月大島キャンプ、2月祝賀会） ・令和元年 荒川区少年団体指導者連絡会55周年記念事業実施予定（8月国立磐梯青少年交流の家） 						
必要性	異年齢集団の仲間や集団行動が苦手な子どもが増えている中、子どもが様々な体験をし、協調性を養う機会を増やすための子ども会組織の健全な育成、及び第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するためにも必要である。						
実施方法	（ 1直営 ） （ 直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員 ）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 加盟団体数（団体）	14	14	14	13	20	
	② 個人会員数（名）	125	126	130	135	140	
③ シニアリーダー数（名）	12	8	14	18	20		
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	子どもの体験活動を支えている団体へ支援することにより、青少年の健全育成に寄与していることから継続した支援を行う。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		300	300	300	300	300	300	300
決算額（元年度は見込み）		300	300	300	300	300	300	300
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
加盟団体		20	16	17	14	14	14	13
個人会員		125	124	130	125	126	130	135
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	489	1,098	609	地方税	0	0	0
	物件費	0	0	0	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	300	300	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	48	59	11	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 837	▲ 1,457	▲ 620
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	837	1,457	620	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 837	▲ 1,457	▲ 620
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 837	▲ 1,457	▲ 620	

備考 行政費用では、補助事業のため、補助費等に300千円かかっている。

問題点・課題 近年、地域で子どもを育てるという意識が薄れており、加盟団体数が伸び悩んでいる。会員数が増加するよう、加盟対象となる団体の発掘・声掛けや、活動のPRなどの支援が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	昨年度に引き続き、少年団体の情報収集を行うと共に、若い世代にも団体の魅力を宣伝できるよう支援する。	団体の魅力を周知できるよう、各種事業におけるチラシ印刷等の支援を行うなど周知に努めた。	若い世代に少年団体の魅力を周知し、会員数が増加するよう支援を行う。
②			
③			

他区の実況 (実施 7 区 未実施 15 区 不明 0 区) 東京都子ども会連合会加盟団体数(28年度) 加盟せず、「協議会」という形で活動している区もあり

況(要旨) 議会質問状

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-16	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	人権教育推進費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	宇津野	内線	3355			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-12-01	人権教育推進費						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	48年	年度	根拠	人権教育及び人権啓発の推進に関する法			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等	荒川区人権推進指針				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	区民が人権問題についての学習機会を得ることにより、基本的人権を尊重することの大切さを正しく理解すると共に、気づきから実際の態度や行動につなげることを目的とする。							
対象者等	区民一般							
内容	<p>人権推進指針に基づき、広く教育的な観点から、様々な課題を自分たちの問題として取り組むための事業を実施する。啓発的観点から事業を実施している総務企画課（人権推進係）と連携しながら進めていく。</p> <p>【30年度実施内容（平成31年3月11日（月））】</p> <p>令和2年の荒川区児童相談所の開設を見据え、困難を抱える子ども・保護者への支援を、区民や地域活動団体が児童相談所等とどのようにつながり、支援できるかを様々な角度から考え、荒川区らしい支援のしくみについて考える機会とした。</p> <p>(1) 講義 ①支援が必要な子ども・保護者の現状を知る ②児童相談所の役割とは</p> <p>(2) グループワーク</p> <p>(3) 質疑応答</p>							
経過	<p>平成9年度まで 部落解放同盟荒川支部（以下「支部」と略す）に対して補助金を交付</p> <p>平成10年度 一部の事業について支部と共催で実施 平成13年度 サマーキャンプと女性交流研修を廃止</p> <p>平成14年度 デイキャンプ、地域交流教室（子ども会）、青年スポーツ交流会、地域交流教室、同和教育及び補助金等については、以後一般施策化</p> <p>平成22～25年度「CAPワークショップ」を年1回ずつ各地区で開催（南千住→日暮里→尾久→峡田）</p> <p>平成26年度「見えない世界の子どもを守る～ネットトラブルの現状とその対応」（小・中保護者向け）</p> <p>平成27年度 戦後70年企画 戦争体験記録講座「平和の大切さを伝えるために」 全4回</p> <p>平成28年度 ①前年度記録誌作成500部 ②災害被害者・支援者に学ぶ「みんなが安全・安心できる避難所生活」を考える。</p> <p>平成29年度 「すべての子どもに夢と笑顔を～貧困の連鎖を断ち切るために私たちができること～」</p> <p>平成30年度 「すべての子どもに夢と笑顔をPART2～児童相談所と区民の連携から考える～」</p>							
必要性	教育的観点から人権問題を社会全体で取り組むための社会教育事業として、また、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」を推進するための施策としても必要である。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	講座の参加者数	34	50	56	60	60	
	②	満足度 (%)	80	83	81	85	88	アンケート調査より
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	区民の人権教育を推進するため、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		98	98	98	95	97	97	97
決算額（元年度は見込み）		70	0	3	27	80	17	97
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
講座数		1	2	1	1	1	1	1
参加者数		50	36	55	34	50	56	60

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児謝礼	73	報償費	託児謝礼	11	報償費	講師・託児謝礼	90
一般需用費	色模造紙・色上質	7	一般需用費	色上質紙ほか	6	一般需用費	色上質紙ほか	7

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	1,876	2,026	▲ 150	地方税	0	0	0	
	物件費	7	6	▲ 1	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	73	11	▲ 62	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	185	108	▲ 77	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 2,141	▲ 2,151	▲ 10	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	2,141	2,151	10	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 2,141	▲ 2,151	▲ 10	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 2,141	▲ 2,151	▲ 10		

備考 行政費用では、託児謝礼として補助費等がかかっている。講師謝礼については、職員が職務内で対応したため、発生していない。

問題点・課題 社会情勢や区内の状況等を踏まえ、緊急性の高いテーマを実施する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	2020年オリ・パラを見据えて、近年増加する外国籍の区民が抱える人権に関する課題に取り組んでいく。	緊急性が高いことから、令和2年度に開設する児童相談所と地域の連携をテーマに講座を企画したところ、区民の関心が高かった。	現状を踏まえ、引き続き児童相談所と地域活動をつなげるための講座を実施する。
②	「子どもの貧困・社会排除問題」について、学びの視点から解決に向けての取り組みを継続して実施する。	赤土小学校、尾久八幡中学校のPTA連携家庭教育学級で、「子ども食堂・子どもの居場所」に関するテーマで講座を行った。	引き続き「子どもの貧困・社会排除問題」に対し、学びの視点から解決に向けての取り組みを実施する。
③			

他区の実況	(実施 14 区 未実施 8 区 不明 0 区)
況(要旨)	東京都教育庁地域教育支援部の人権教育事業実施状況調査（H29度実績）より。 ※教育委員会以外の調査は反映されていない

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-17	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	社会教育サポーター	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	奈良	内線	3355			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-13-01	社会教育サポーター						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 17 年度	根拠	荒川区社会教育サポーター設置要綱(平成26年度制定)					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	生涯学習活動に関する知識、技能、経験を持つ区民が、ボランティアの精神で、社会教育関係団体、地域団体等が行う活動等を支援することで、青少年の健全育成や様々な区民の生涯学習に対するニーズに応えと共、自らの学びを地域に活かす機会を提供する。							
対象者等	①地域団体（町会・女性・高齢者・青少年対策地区委員等） ②社会教育団体（青少年委員・PTA・文化・伝統工芸技術・少年・青年等） ③前記団体・教職員等のOB ④知識・技術・経験をもつ地域活動に関心をもつ18歳以上の区民							
内容	<p>【サポーターの登録】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育に関する知識、技能、経験を持ち、青少年や地域のために、自らの学びを活かし活動することを希望する18歳以上の区民を、社会教育サポーターとして登録する。 毎年度、登録継続希望の有無を確認し、継続希望のサポーターを、ボランティア保険に加入する。 <p>【サポーターの派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣団体の依頼により、生涯学習課がコーディネートする。サポーターは、生涯学習活動を進める団体の求めに応じ、講師、活動支援、託児等の活動を行う。 <p>【全体会実施】平成29年度「社会教育サポーター活動のひろがりを考えるパート2」開催 平成30年度「社会教育サポーター活動のひろがりを考える 子ども編」 子供の家愛育保育園副園長ピアヘルパー青木恵里佳氏を講師に、講演や話し合い</p> <p>【活動の周知】平成30年度 町会連合会にて事業周知、荒川コミュニティカレッジ学園祭にて活動紹介</p>							
経過	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度 社会教育サポーター通信の発行を開始 平成21年度 青少年団体以外の派遣依頼が増えたため、対象を生涯学習全般に拡大 子育てサポーター講習修了生の活動の場とともに、子育て世代の生涯学習機会の拡充を図るため、活動分野に「託児」を追加 平成27年度 あらかわ福祉まつりで活動紹介ブース・ステージで活動紹介 平成28年度 コミカレ学園祭で活動紹介、あらかわ福祉まつりでチラシ配布 平成29年度 区内生き粋サロンへのチラシ配布 平成30年度 町会連合会へ社会教育サポーターを周知 							
必要性	学習成果を地域に活かす取り組みとして、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するために欠かせないものであるとともに、多様化する区民の生涯学習に関するニーズに応える事業として、必要性は高い。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	登録者数	129	126	123	125	135	
	②	活動数(延べ)	99	102	161	165	170	
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	地域の人材を活用することで、青少年の健全育成や生涯学習の振興につなげることができ、合わせて区民が学びを地域に活かすきっかけとして必要であり、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		104	88	114	109	97	115	97
決算額（元年度は見込み）		23	46	89	83	75	89	97
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
社会教育サポーター登録数		125	127	133	129	126	123	125
社会教育サポーター活動数		83	92	135	99	102	161	165
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	報告者・託児謝礼	9	報償費	報告者・託児謝礼	26	報償費	報告者・託児謝礼	26
需用費	消耗品等	18	需用費	消耗品等	19	需用費	消耗品等	26
役務費	ボランティア保険	34	役務費	ボランティア保険	35	役務費	ボランティア保険	45
償還金利息等	都補助還付金	14	償還金利息等	都補助還付金	18			

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
	給与関係費	1,305	1,182	▲123	地方税	0	0	0
	物件費	18	17	▲1	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	48	48	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	57	72	15	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	48	48	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	129	63	▲66	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲1,461	▲1,286	175
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	1,509	1,334	▲175	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲1,461	▲1,286	175
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲1,461	▲1,286	175

備考 行政費用では、給与関係費が多くを占めている。補助費等の内訳については、全体会の講師への報償費20千円や、サポーターの保険加入にかかる保険料34千円などである。行政収入としては、都からの補助金として、48千円の収入があった。

問題点・課題 ①事業をより効果的に活用してもらうため、サポーター登録者、利用者ともに、制度や運営方法についての理解を深める必要がある。
②依頼のある団体（施設）や派遣するサポーターが固定化する傾向がある。
③サポーター登録をしても、派遣依頼の少ないサポーターがいるため、新たな活動の場を開拓し、より一層の周知が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	整理したルールの共有・徹底をするとともに、活動者や活用団体の意見やニーズを制度に反映する。	事業利用のルールを徹底し、制度を利用しやすくしたことにより、安定した派遣依頼に繋がっている。	引き続き、活動者・活用団体のニーズを反映し、より利用しやすい制度となるよう検討を行う。
②	区内各地域の町会連合会にて直接事業の説明をして、事業の周知を徹底する。	今年度から町会連合会に周知を実施した。また、社会福祉協議会との連携を図った結果、新規の団体からの依頼が増えた。	町会連合会には引き続き周知を行い、事業のニーズに沿った周知の場を開拓する。
③	引き続き新規登録者を積極的に派遣し、継続登録者の新しい活動の場の開拓に努める。	新規登録者、また活動の機会が少ないサポーターを積極的に派遣した他、コミカレ学園祭など、活動の周知の場を提供した。	派遣依頼の際のヒアリングによって、活用団体の様々なニーズを引出し、幅広い分野のサポーターを派遣していく。

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
況(要旨)	人材バンク、講師派遣制度等類似制度はあり
議(要旨)	議(要旨)

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-18	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	相川	内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-01	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	58年度	根拠	荒川区立清里高原ロッジ条例、荒川区立清里高原少年自然の家条例、両条例施行規則			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	<p>[ロッジ] 区民が、豊かな自然環境の中で荒川区ではできない体験をしたり、交流を深めたりすることにより、心身の健康増進を図る。</p> <p>[自然の家] 豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、明日を担う少年の豊かな情操と自律、協同の精神を養い、創意と活力にあふれる人間形成を図る。</p>						
対象者等	<p>1 荒川区内の青少年団体その他の社会教育関係団体（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）</p> <p>2 区立小・中学校（移動教室等の教育活動）</p> <p>3 区内在住者、区内在勤者及びその家族等（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）</p>						
内容	<p>【開設】 昭和58年4月15日【所在地】 山梨県北杜市高根町清里3545-5</p> <p>【定員】 ロッジ35名、少年自然の家200名</p> <p>【宿泊室】 ロッジ 12畳5室、9畳(ベッド)1室、研修室洋間55㎡(34畳)、談話室、食堂、浴室 自然の家 24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育室</p> <p>【土地】 32,322㎡ 【構造】 鉄筋コンクリート造2階建</p> <p>【建物】 延3,999.96㎡（ロッジ809.99㎡、自然の家3,189.97㎡）【面積比】 ロッジ：自然の家＝2：8</p> <p>【休館】 ① 1月1日から4月28日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、直前の金曜日）まで ② 11月5日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、直後の月曜日）から12月31日まで</p> <p>※令和元年度開設期間：令和元年4月27日（土）～令和2年1月13日（祝）</p>						
経過	<p>昭和58～13年度 高根町に管理委託（10年間×2回）</p> <p>平成14年度～ （株）ニッコトラストに業務委託</p> <p>平成18～23年度 指定管理者（株）ニッコトラスト（公募18～20年）（更新21～23年）</p> <p>平成24～26年度 指定管理者ニッコトラスト・尾瀬林業プロジェクト（公募）</p> <p>※平成25年7月1日 ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクトに名称変更</p> <p>平成27～29年度 指定管理者ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト（更新）</p> <p>※27年6月、北杜市と「災害時相互応援協定」を締結し、本施設を災害時の拠点施設と位置付けた</p> <p>平成27年度 区立小学校の夏期学園について実施見直し（実施11校）</p> <p>平成28年度 夏期学園休止（実施0校）※移動教室は実施</p> <p>平成30～35年度 指定管理者（株）旺栄（公募）</p> <p>令和元年度～ 冬季開設の試行※令和元年度は、令和元年4月27日（土）～令和2年1月13日（祝）</p>						
必要性	荒川区内では体験することが難しい自然とのふれあいや、小中学校の校外活動を行う場としての役割は大きく、第三次生涯学習推進計画における施策の柱1の施策(3)「学びの場の充実」を図るためにも必要である。						
実施方法	<p>（3委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）</p> <p>指定管理者：（株）旺栄</p>						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 利用者満足度（%）	94.1	96.0	98.0	98.3	100.0	「職員対応」に対する「良い」の回答割合
	② 利用人数（人）	7,124	7,566	8,062	8,766	9,500	延べ利用者数（27年度、28年度に、学校利用の変更あり）
③ 利用者1人当たりの維持管理コスト(円)	8,695	8,077	7,870	7,670	6,226	決算額/利用者数（算出決算額は工事等臨時経費を除いた額）	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	区民の健康増進の場、児童生徒の自然体験活動の場を提供するため必要であり、継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		56,982	56,109	62,551	62,894	85,784	78,582	62,750
決算額（元年度は見込み）		56,891	56,102	61,159	61,944	80,525	73,895	62,750
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
一般利用者（人）		1,467	1,646	1,757	1,657	2,170	2,546	3,046
学校利用者（人）		8,318	8,499	6,889	5,467	5,396	5,516	5,720

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	管理運営指導等旅費	309	旅費	管理運営指導等旅費	590	旅費	管理運営指導等旅費	234
委託料	指定管理料、工事設計委託	61,925	家屋等修繕費	浴室、放送設備修繕	7,179	委託料	指定管理料	59,091
使用料等	土地賃借料等	3,166	役務費	バスケットボールライン引き	513	使用料等	土地賃借料等	3,125
工事請負費	受変電設備改修工事等	14,580	委託料	指定管理料	56,784	備品購入費	ワイヤレスアンプ	300
備品購入費	洗濯乾燥機等	306	使用料等	土地賃借料等	3,122			
役務費	PCB廃棄物運搬費	240	工事請負費	給排水工事費、警報盤設置	116,690			
			備品購入費	バスケットゴール設置費	5,378			

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	6,280	5,488	▲ 792	地方税	0	0	0	
	物件費	60,113	61,014	901	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	14,580	7,504	▲ 7,076	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	23,400	23,400	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	621	294	▲ 327	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 104,994	▲ 97,700	7,294	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	104,994	97,700	▲ 7,294	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 104,994	▲ 97,700	7,294	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 104,994	▲ 97,700	7,294		

備考

行政費用では、指定管理者委託料56,784千円を含む物件費が多くかかっている。また、30年度は非常用放送設備修繕、浴室及び脱衣室修繕を実施したため、維持補修費が7,504千円かかっている。

問題点・課題

- ①開設から35年が経過しており、施設、設備を含めた計画的修繕が必要である。
- ②令和元年度試験的に行う冬季の施設開設について、区と指定管理者で実施状況を検証し、来年度以降の本格実施に向けて、協議を重ねていく必要がある。
- ③学校利用時における食物アレルギー対応について、事故ゼロを達成する。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	中長期改修実施計画の一環として、給排水設備工事（トイレ改修工事）を実施する。	給排水設備工事（トイレ改修工事）を実施し、施設の利便性の向上を図った。	中長期改修実施計画にもとづき、改修が必要な設備を改修することで、施設の利便性、安全性の向上を図っていく。
②	新たな指定管理者と連携して、前年度までのサービスを維持し、一層魅力的な事業実施に努め、利用者の増加を図る。	新たな指定管理者と連携し、これまでのサービスの質を維持しつつ、新たな自主事業を実施する等、利用者の増加を図った。	指定管理者が提案する自主事業を取り入れること等により、さらなる利用者数の増加を図る。
③	新たな指定管理者への注意喚起を徹底すると共に、再委託業者への指導を行い、事故ゼロを継続する。	新たな指定管理者への注意喚起、再委託業者への指導を行ったが、30年度はアレルギーの誤配が1件あった。	指定管理者からの再発防止策の履行とともに、引き続き注意喚起を徹底することで、事故0を達成する。

他区の実況	（実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区）		
社会教育施設のうち宿泊施設を有する区			
議会要旨	平成27年度 予特 平成27年度 6月会議 平成28年度 予特 平成30年度 決特	通年開設の検討について トイレの洋式化について 施設を活用した高地トレーニングについて 冬季開設について	

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-19	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	町屋文化センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	内田	内線	3351			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-01	町屋文化センター管理運営費						
	01-01-02	町屋文化センター管理運営費（施設改修）						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業	<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	63 年度	根拠	荒川区立町屋文化センター条例、同施行規則				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内	<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12	生涯学習活動の支援					
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくとともに、学習、文化活動の推進を図る。							
対象者等	荒川区内在住・在勤・在学者							
内容	<p>【開設】 昭和63年11月1日</p> <p>【所在地】 荒川区町屋7-20-1</p> <p>【土地面積】 4,137.28㎡（イーストヒル町屋）の一部</p> <p>【延床面積】 2,400㎡</p> <p>【構造】 鉄筋コンクリート造3階建</p> <p>【施設面積】 多目的ホール188.80㎡（椅子席154名収容）、音楽練習室60.78㎡、ふれあい広場480.41㎡</p> <p>第1会議室64.08㎡（36名収容）、第2会議室65.61㎡（33名収容）</p> <p>第3会議室68.57㎡（45名収容）、第4会議室 74.47㎡（45名収容）</p> <p>【利用時間】 午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】 カルチャー講座、自主事業（一日文化体験）等</p>							
経過	昭和63年11月 施設管理・運營業務を（財）荒川区地域振興公社（ACC）に委託 平成18～20年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者として管理運営（公募） 平成21～23年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者（更新） 平成23年度 東日本大震災の影響による電力不足対策で平成23年3月12日～5月15日の夜間利用休止 平成24～26年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（特命） 平成27～29年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（更新） 平成30～35年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（特命）							
必要性	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくとともに、学習、文化活動の推進を図るため、また、荒川区第三次生涯学習推進計画の施策の柱1「学びの基盤を整備・拡充する」を推進するためにも充実する必要がある。							
実施方法	（3委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 指定管理者：公益財団法人 荒川区芸術文化振興財団							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	利用者満足度（施設の利用しやすさ・職員の対応）（%）	69	75	78	80	100	利用者アンケートにおける「大変良い」と「良い」の回答数
	②	利用者数（人）	178,995	182,093	174,283	180,000	185,000	延べ利用者数
③	カルチャー講座受講者数（人）	4,388	4,388	4,069	4,200	4,800	延べ受講者数	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
重点的に推進	重点的に推進	区民の誰もが気軽に参加し、低廉な価格で良質な文化や学習を享受できる場を運営するため、重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		38,075	38,601	47,491	40,139	39,357	41,366	46,276
決算額（元年度は見込み）		38,075	38,565	45,161	39,850	39,357	41,158	46,276
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
多目的ホール（利用件数）		1,098	1,160	1,133	1,128	1,122	1,087	1,100
音楽練習室（利用件数）		1,114	1,161	1,197	1,221	1,207	1,183	1,200
第1～4会議室（利用件数）		3,736	3,793	3,745	3,749	3,727	3,737	3,700
ふれあい広場（利用件数）		336	300	315	334	513	476	450
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	24,192	委託料	指定管理料	24,627	委託料	指定管理料	25,116
負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068
備品購入費	キャビネット購入	97	需用費	プレイコーナ-棚扉改修工事	160	使用料及び賃借料	AEDリース（全庁対応）	15
			工事請負費	プレイコーナ-床かさ上げ改修工事	1,293	備品購入費	テレビ購入	77
			使用料及び賃借料	AEDリース（全庁対応）	11	委託料	リニューアルデザイン委託	6,000

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	2,447	4,222	1,775	地方税	0	0	0	
	物件費	24,289	24,638	349	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	1,452	1,452	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	15,068	15,068	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	18,096	18,096	0	その他	770	960	190	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	770	960	190	
	賞与・退職給与引当金繰入額	242	226	▲16	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲59,372	▲62,742	▲3,370	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	60,142	63,702	3,560	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲59,372	▲62,742	▲3,370	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲59,372	▲62,742	▲3,370		

備考 行政費用では、指定管理料24,627千円を含む物件費が多くかかっている。また、イーストヒル町屋管理組合に支払う管理・修繕費として、補助費等が15,068千円がかかっている他、30年度はプレイコーナ-の床改修工事等で維持補修費が1,452千円かかっている。

問題点・課題 ○開設から31年を経過する施設であるため、設備や備品の老朽化が進んでいる。その都度、小規模な修繕をしたり、新たな備品を購入したりして対応しているが、施設としての快適さが十分とはいえず、計画的な大規模修繕等を進める必要がある。
○快適な施設利用や地域のニーズに応じた講座やイベント等の充実に努め、利用者の増加につなげる必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	利用者の安全と快適な利用のため、段差のある2階プレイコーナ-床について、かさ上げ工事を実施する。	2階のプレイコーナ-床かさ上げ工事及び棚扉改修を実施したことにより、段差が解消され安全かつ快適に利用できるようになった。	より安全で快適な施設とするため、老朽化した施設や設備のリニューアル工事を円滑に実施できるよう、取り組む。
②	カルチャー講座のweb決済や24時間受付システム導入等による受講手続き等の簡便化を図り、利用者の増加につなげる。	受講管理システムを更新し、Web決済や24時申込み受付を可能にするなど、受講者サービスを向上させることができた。	リニューアル工事の計画と合わせ、老朽化した備品の更新や利用受付方法の改善に取り組む。
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
	文化センター、コミュニティセンター等の生涯学習施設
議会(要旨)質問状	平成30年度決特 町屋文化センターのリニューアルについて 平成30年度11月会議 町屋文化センターの改修について 平成30年度2月会議 町屋文化センターのリニューアル状況の検討について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-20	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	生涯学習センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	水谷	内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-01	生涯学習センター管理運営費					
	01-01-02	生涯学習センター管理運営費（施設改修）					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	9年度	根拠	荒川区立生涯学習センター条例、同施行規則			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習意欲に応える機会をつくるとともに、生涯学習に関する相談、情報収集・提供等を行い、生涯学習の推進を図る。						
対象者等	区民一般 各種講座などは、18歳以上の在住・在勤・在学者を対象とする。						
内容	<p>【開設】平成9年7月1日</p> <p>【所在地】荒川区荒川3-49-1(教育センターと併設)</p> <p>【土地面積】6,579.78㎡</p> <p>【延床面積】2,970.35㎡(4530.36㎡のうち)</p> <p>【構造】鉄筋コンクリート4階建(うち1・3・4階部分)</p> <p>【施設内容】小会議室4室(64㎡、30人程度)、大会議室(128㎡、80人程度)、音楽室(128㎡、40人程度)、多目的室(128㎡、60人程度)、学習室(64㎡、30人)、情報提供コーナー(64㎡)、体育館(700㎡)、多目的広場(3,486㎡)</p> <p>【利用時間】午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】区民カレッジ、専修学校の公開講座、IT講習会等</p>						
経過	<p>平成9～15年度 直営（一部業務委託）</p> <p>平成16～17年度 施設運営等業務を(株)読売・日本テレビ文化センターに委託</p> <p>平成18～23年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募、更新1回）</p> <p style="padding-left: 20px;">*東日本大震災の影響による電力不足対策として、平成23年3月12日～5月15日の間、全館夜間利用の休止、9月10日まで夜間利用の体育館等の休止を行った。</p> <p>平成24～29年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募、更新1回）</p> <p>平成25・26年度 外壁及び屋上防水改修工事の実施</p> <p>平成26年下半年～ 多目的広場について大人を含めた利用対象者の拡大を実施(平日午前、午後I)</p> <p>平成28・29年度 1階女子トイレ1カ所、3階女子トイレ1カ所の洋式化を実施</p> <p>平成30～35年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募）</p> <p>平成30年度 4階女子トイレ1カ所の洋式化を実施</p>						
必要性	子どもから大人まで様々な学習の場として利用されており、区民の生涯学習活動を行う拠点としての役割は大きく、また、第三次生涯学習推進計画施策の柱1「学びの基盤を整備・拡充する」に基づく生涯学習の拠点施設としての機能を充実し、更なる活用を図る必要がある。						
実施方法	<p>（3委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）</p> <p>指定管理者：株式会社 読売・日本テレビ文化センター</p>						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 施設稼働率(%)	64.2	66.1	64.6	70.0	75.0	多目的広場、PC室を除く
	② 区民カレッジ受講率(%)	85.2	87.6	73.1	80.0	95.0	受講者数/定員の割合
③ 受付職員の接客対応の良さ(%)	69.1	70.4	72.0	75.0	100	利用者アンケートにおける「非常に良い」「良い」の割合	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
重点的に推進	重点的に推進	区民の生涯学習活動の拠点として重要であり、重点的に推進する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		89,848	157,650	66,807	66,379	68,841	73,418	91,514
決算額（元年度は見込み）		88,704	141,269	65,564	66,045	67,728	72,819	91,514
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
施設利用件数（多目的広場、PC室を除く）		7,280	7,350	7,344	7,283	7,517	7,351	7,500
施設利用者数（多目的広場、PC室を除く）		131,565	174,090	170,758	156,441	137,572	134,378	150,000
区民カレッジ受講者数		3,580	3,921	3,853	3,688	4,053	4,046	4,100
IT講習会参加者数		891	767	716	754	776	938	950

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48
需用費	空調機取替修繕	594	委託料	指定管理料	57,367	需用費	家屋等修繕費	2,835
役務費	樹木伐採作業	502	使用料等	公有地賃借料等	13,147	委託料	指定管理料等	63,515
委託料	指定管理料	54,086	工事請負費	ブロック塀・多目的広場改修等	2,257	使用料等	公有地賃借料等	15,918
使用料等	公有地賃借料等	12,497				工事請負費	塀改修工事等	9,198

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	4,078	5,910	1,832	地方税	0	0	0	
	物件費	67,086	70,514	3,428	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	594	2,257	1,663	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	48	48	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	434	445	11	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	434	445	11	
	賞与・退職給与引当金繰入額	403	316	▲ 87	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 71,775	▲ 78,600	▲ 6,825	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	72,209	79,045	6,836	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 71,775	▲ 78,600	▲ 6,825	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 71,775	▲ 78,600	▲ 6,825		

備考 行政費用では、指定管理料57,367千円を含む、物件費が多くかかっている。また、29年度は空調機取替修繕により594千円、30年度は南側ブロック塀およびプール壁面改修工事により1,274千円、多目的広場不陸整正工事により983千円、維持補修費がかかっている。

- 問題点・課題
- ①利用者アンケート等を踏まえて、職員研修や施設の管理運営に反映し、接遇やサービスの向上に取り組む。
 - ②施設・設備の老朽化が進んでおり、計画的に修繕や改修工事を継続的に行っていく必要がある。
 - ③区民カレッジ等の講座について、区の事業と連携しながら、内容の充実を図る必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	積極的な声掛けやあいさつ等により、利用者の側に立った接遇やサービスの向上に取り組む。	あいさつ月間の実施や、施設内で取れたふうせんかずらの種の配布など、利用者目線の接遇やサービスの向上に取り組んだ。	より多くの区民が施設を利用できるように、HPでの情報発信やあいさつ月間の継続など、さらなるサービス向上に取り組む。
②	トイレ改修等、アンケートで特に要望の多い箇所から施設修繕に取り組み、安全で快適な利用環境を整える。	指定管理者によるトイレの洋式への改修や、区による南側ブロック塀の改修など、安全で快適な利用環境の整備に取り組んだ。	快適に利用できるように、区と指定管理者が協力しながら施設の改修等に取り組む。
③	区民カレッジやIT講習会などの各種事業について、内容の充実を図り、参加者の増加につなげる。	IT講習会の新講座や元五輪選手の講演会実施など内容を充実するとともにゆいの森に区民カレッジコーナーを設けPRを行った。	区民カレッジについて、オリンピック関連の講演会を引き続き行うとともに、アンケート等を基に内容の充実を図る。

他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）	
	生涯学習センター、社会教育館、青少年センター等の社会教育施設	
議会議決要旨	平成25年度 予特 平成28年度 予特 平成29年度 11月会議 平成30年度 9,11月会議	「多目的広場の大人の利用について」 「体育館への空調設置について」 「体育館への空調設置について」 「体育館への空調設置について」

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-21	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	荒川コミュニティカレッジ	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑			
		担当者名	金子	内線	1829			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-14-01	荒川コミュニティカレッジ管理運営費						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 22 年度	根拠	荒川コミュニティカレッジ実施要綱					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市					
	政策	10	活力ある地域コミュニティの形成					
	施策	01	地域活動の支援と人材育成					
目的	区民が地域への関心を深めるとともに、地域活動の担い手となるために学ぶ機会を提供することにより、区民が主体的に地域活動に取り組めるよう支援する。							
対象者等	荒川区在住・在勤・在学の18歳以上の方							
内容	<p>【会場】サンパール荒川6階荒川コミュニティカレッジ研修室、区内及び区外施設</p> <p>【履修期間】各コース1年間（平成31年4月～令和2年3月）</p> <p>(1) 必修科目 各コース1回2時間の講座を月2回程度</p> <p>○あらかわまちづくりコース（木曜 午前10時～） 荒川区のまちの魅力や課題等を発見し、地域活動への一歩につなげる。</p> <p>○クリエイティブコース（土曜 午前10時～） 商店街に着目して、人とのつながりや活気あるまちづくりを目指した地域交流企画や運営を学ぶ。</p> <p>(2) 選択科目 <選択講座> 荒川コミュニティカレッジが実施する地域活動に役立つ養成講座 <公開講座> 区民一般を対象とした地域活動に関する教養講座等 <連携講座> 他課で実施する地域活動に役立つ講座</p> <p>(3) その他 入学式、修了式、学園祭、地域活動に関する相談、受講生・修了生の活動支援</p>							
経過	<p>平成22年度 荒川コミュニティカレッジを開校（10月入学） 必修講座開講（受講期間2年間で昼と夜）選択講座開講（活動のためのスキルアップ講座）</p> <p>平成23年度 公開講座開講（一般区民にまで対象を拡大した講座） 公立大学法人首都大学東京と連携講座開講のために協定を締結 第1回学園祭開催</p> <p>平成25年度 単科生制度開始（受講コース2年目に編入）</p> <p>平成26年度 地域活動団体紹介冊子の発行</p> <p>平成27年度 サンパール大規模改修工事により、一時的に事務局がセントラル荒川ビルへ移転 「コミカレ！ガイドブック」の発行</p> <p>平成28年度 5周年記念式典を開催 「5周年記念誌」の発行 受講開始月変更（10月から4月開始へ変更）受講期間変更（夜コースを2年間から1年間に）</p> <p>平成30年度 土曜コースの新設 地域活動登録制度開始</p>							
必要性	区と区民とが協働し、「幸福実感都市」を実現するための基盤づくりとして、地域社会を担う人材を育成するため、また、第三次荒川区生涯学習推進計画の施策の柱3「地域で学び活躍する人材を支援する」を推進するため、充実する必要がある。							
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	入学生人数（累計）	334	372	408	447	700	
	②	修了生が新たに立ち上げた地域活動団体数（計）	25	35	41	45	75	
③	受講生の講座出席率（%）	73	76	80	80	90	出席者数/在籍者数（延べ人数）	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
重点的に推進	重点的に推進	区民が学びの成果を活かして主体的な地域活動に参加できるように学習する場として、重点的に推進する。						

予算・決算額等の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額	13,057	12,190	23,997	11,201	8,751	8,178	7,919
決算額(元年度は見込み)	8,210	10,757	20,779	5,633	6,222	5,881	7,919
実績の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
入学生数(人)	54	53	13	33	38	36	39
修了生数(人)	29	47	39	44	32	38	39
修了後の年度別地域活動参加率(%)	-	92	94	91	91	90	90

予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
賃金	臨時職員賃金	581	賃金	臨時職員賃金	543	賃金	臨時職員賃金	620
報償費	講師謝礼等	2,291	報償費	講師謝礼等	1,845	報償費	講師謝礼等	2,533
需用費	消耗品、印刷製本等	1,344	需用費	消耗品、印刷製本等	1,935	需用費	消耗品、印刷製本等	2,285
役務費	電話料等	190	役務費	電話料等	220	役務費	電話料等	232
委託料	普及促進紙制作等	459	委託料	普及促進紙制作等	560	委託料	普及促進紙制作等	469
使用料等	会場使用料等	317	使用料等	会場使用料等	315	使用料等	会場使用料等	672
負担金補助等	サンパール荒川清掃費等	1,041	負担金補助等	サンパール荒川清掃費等	1,041	負担金補助等	サンパール荒川清掃費等	1,048

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	11,419	10,132	▲ 1,287	地方税	0	0	0	
	物件費	2,733	2,832	99	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	153	0	▲ 153	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	3,336	3,049	▲ 287	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	510	486	▲ 24	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	510	486	▲ 24	
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,128	542	▲ 586	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 18,259	▲ 16,069	2,190	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	18,769	16,555	▲ 2,214	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 18,259	▲ 16,069	2,190	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 18,259	▲ 16,069	2,190		

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。それ以外に講師謝礼、託児謝礼などの報償費が補助費として多くかかっている。また、平成30年度は建物修繕を行わなかったため、維持補修費は発生していない。行政収入では荒川コミュニティカレッジ受講料として、486千円の収入があった。

問題点・課題 ①地域活動をより推進していくため、公開講座や学園祭、区主催のイベント等で情報発信を行い、周知活動を強化することで入学希望者を増やす必要がある。
②より多くの方が地域社会を築く担い手となるために学ぶことができるよう、受講者のニーズを踏まえた上で、地域活動に必要な知識等を盛り込んだカリキュラム編成とする必要がある。
③10周年を迎えるに当たり、受講生だけでなく修了生や地域活動団体が地域で主体的に活動できるように支援を充実させていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	公開講座等の充実や、ICTの活用、印刷物の配布による情報提供、地域イベントでの情報発信等を積極的に行う。	公開講座や学園祭といった区民が参加するイベントの周知を、区SNSや掲示板へのポスター掲示等を活用して積極的に周知活動を行った。	公開講座や学園祭など、区民が参加できるイベントを様々な手法で周知し、荒川コミュニティカレッジをPRしていく。
②	土曜日コースを新設するなど、今まで受講しづらかった区民の方も積極的に参加できるように、講座内容の充実を図っていく。	平成30年度から新たに土曜コースを開講したことで、平日の講座に参加できなかった区民が講座に参加できるようになっている。	生涯学習課が実施する講座のみではなく、他課と連携をとり受講生・修了生が参加できる講座を紹介し、活動の幅をさらに広げる。
③	地域活動団体登録制度を活用し、活動に繋がる情報発信や、資金の調達方法等に関する学習機会を通じて活動を支援していく。	新たに始めた地域活動団体登録を活用し、区内で実施するイベントへの参加を呼びかけるなど、地域活動団体を支援している。	受講生・修了生が参加する10周年記念イベントを開催することで、地域活動についての情報交換や、学びを深める場を提供する。

他区の実況	(実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区)
地域活動における人材育成のための講座を、全成人に対し1年間以上実施している区。それぞれの区で目的や実施方法等が異なっており、全く同じ事業はない。※対象をシニアに限定、運営をすべて委託している区は除く。実施区：千代田区、品川区、豊島区、練馬区、江戸川区	

議会(要旨)質問状	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度一定 町会との連携について 平成25年度予特 受講生・修了生の活動の場について 平成25年度決特 現状と今後の展望について 平成27年度11月会議 現状と今後の展望、5周年記念誌の作成等について 平成29年度 9月会議 防災面における地域人材の育成について
-----------	--

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-22	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	長野	内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-01	荒川ふるさと文化館管理費					
	01-02-01	荒川ふるさと文化館一般運営費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 10 年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示や企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与する。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	<p>○施設 地下：収蔵庫、★視聴覚室(45人)、★研修室(30人)、工作室、1階：常設・企画展示室、伝統工芸ギャラリー、2階：調査研究室、4階：事務室 ★=貸出可能施設（有料）</p> <p>○入館料 100円(区内在住の障がい者とその介助者・65歳以上・中学生以下は無料)</p> <p>○主な所轄事業</p> <p>①荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存</p> <p>②常設展示及び特別展示事業(企画展等)</p> <p>③資料に係る専門的な調査研究</p> <p>④文化財の保存及び活用</p> <p>⑤郷土の歴史・郷土文化に関するレファレンス(資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等)</p> <p>⑥教育、学術及び文化の振興に関する事業(各種講座)</p> <p>⑦伝統技術の保護と育成(荒川学校職人教室・伝統技術展、荒川区伝統工芸技術継承者育成事業等)</p>						
経過	<p>○工期 建物：平成7年10月19日～10年3月31日 常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日</p> <p>○開設 平成10年5月1日(開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託)</p> <p>○平成21年 野外展示として、橋本左内の墓旧套堂を復元</p> <p>○平成26年3月 第27回奥の細道サミットが荒川区で開催され、当施設が関連拠点の一つとなる</p> <p>○平成29年3月 故金子兜太氏の句碑が館入り口に建立される</p> <p>○平成29年5月 1階の郷土資料室のレファレンス機能をゆいの森あらかわに移設するのにあわせて、元郷土資料室を活用して伝統工芸ギャラリーの運営を開始(展示・実演・体験等)</p> <p>○令和元年 奥の細道旅立ち330周年を記念して、常設展示に「奥の細道コーナー」の新設並びに正面入り口に芭蕉の旅立ちをテーマとしたペイント画が設置される予定</p>						
必要性	荒川の歴史や文化をより深く理解してもらい郷土愛を育むために必要であり、千住宿・奥の細道関係の観光スポットや、伝統工芸技術を間近で見られる場所として活用の頻度は高い。また、第三次生涯学習計画の施策の柱1「学びの基盤を整備・拡充する」の推進のため、より充実する必要がある。						
実施方法	(一部委託) (直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)						
	受付業務(入館者への案内、料金の受取りなど)を委託している						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 文化館利用者数(人)	19,085	20,059	19,897	20,500	30,000	展示室観覧者+伝統工芸ギャラリー
	② 文化館展示室観覧者数(人)	15,530	18,355	17,037	20,000	22,000	
③ 観覧者アンケートの満足度(%)	-	66	75	80	90	企画展アンケートで、「面白い」の評価を4以上とした方の割合	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
推進	推進	区の歴史・文化を学び、親しむための拠点施設の運営に関する事業であるため、推進する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		57,659	80,960	51,678	80,038	56,652	59,740	64,870
決算額（元年度は見込み）		56,489	73,927	50,180	70,318	53,997	57,729	64,870
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
文化館利用者数（人）		19,981	20,771	23,022	19,085	20,059	19,897	20,500
展示室観覧者数（人）		15,458	16,556	17,657	15,530	18,355	17,037	20,000
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	学芸員報酬	16,103	報酬	学芸員報酬	16,169	報酬	学芸員報酬	20,141
共済費	学芸員社会保険料	2,345	共済費	学芸員社会保険料	2,023	共済費	学芸員社会保険料	2,607
賃金	アルバイト	380	賃金	アルバイト	582	賃金	アルバイト	698
旅費	郷土資料等調査旅費	32	旅費	郷土資料等調査旅費	45	旅費	郷土資料等調査旅費	45
需用費	光熱水費等	11,573	需用費	光熱水費等	11,051	需用費	光熱水費等	11,516
役務費	電話料金等	1,180	役務費	電話料金等	328	役務費	電話料金等	1,232
委託料	建物維持業務委託等	21,974	委託料	建物維持業務委託等	22,370	委託料	建物維持業務委託等	24,391

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
	給与関係費	22,934	23,931	997	地方税	0	0	0
	物件費	32,459	37,136	4,677	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	3,059	1,870	▲ 1,189	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	30	30	0	使用料及び手数料	365	311	▲ 54
	減価償却費	40,228	40,228	0	その他	0	62	62
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	365	373	8
	賞与・退職給与引当金繰入額	443	280	▲ 163	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 98,788	▲ 103,102	▲ 4,314
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	99,153	103,475	4,322	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 98,788	▲ 103,102	▲ 4,314
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 98,788	▲ 103,102	▲ 4,314

備考

行政費用では、物件費が多くかかっている。主な内訳として、建物維持業務委託費が23,820千円かかっている。また、30年度は、「続 あらかわ今昔ものがたり」「続々 あらかわ今昔ものがたり」の制作委託(2,137千円)等により、前年度より4,677千円の増であった。

問題点・課題

- ①開設後20年以上が経過し、空調設備、照明のLED化等展示室の特定天井改修の施工、また、常設展示室の奥の細道コーナーの新設を含めた常設展示のリニューアル等を含む大規模改修を検討する必要がある。
- ②企画展の集客数を増加するため、更なるHPの充実・SNSの活用を図る等PR方法の改善が必要である。
- ③併設の南千住図書館と施設の管理・運営について事業連携など検討を要する。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	建物全体の老朽化に伴う修繕、展示改修を含む大規模改修等について、南千住図書館と連携し、検討する。	南千住図書館・ふるさと文化館の連携を軸とした課題・解決方法の検討を実施した。	南千住図書館と連携し、南千住図書館・ふるさと文化館リニューアルのコンセプトによる改修計画を策定する。
②	開館20周年を記念した企画展について早期に周知し、さらにSNSの充実、魅力的なHP情報の提供を図る。	開館20周年記念企画展「ようこそ匠のまちあらかわへ-あらかわと職人の歴史世界part2-」を開催、区内外に周知した。	奥の細道330周年記念の奥の細道コーナー新設に合わせ、区内外から集客できるような展示を行う。
③	施設の管理・運営について、南千住図書館と共同で実施することの検討を行う。	南千住図書館と合同で、6月と12月に防災訓練を実施し、施設の安全管理について共有した。	大規模改修を含めた施設の管理・運営について、南千住図書館と共同で、実施内容についての検討を行う。

他区の実況

(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

議会要旨問状

平成28年度 2月予特、9月決特 荒川ふるさと文化館の名称変更等について
平成29年2月予特 あらかわ伝統工芸ギャラリーについて
平成29年9月決特 ふるさと文化館の名称変更、施設の位置付け等について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-23	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	古澤	内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-02-02	荒川ふるさと文化館事業推進費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 10 年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示の補完と文化財普及・啓発のために、企画展、講座等の事業を実施し、文化財保護への理解と郷土愛を深めるようにする。						
対象者等	区民全般、荒川ふるさと文化館来館者						
内容	①企画展：1か月程度の会期で、テーマに基づいた展示を実施。観覧料は条例により「1000円を超えない範囲で教育委員会が定める」とされているが、常設展示と合わせて100円で実施 ②館蔵資料展：年1～2回開催。1か月程度の会期で、館が所蔵している文化財や新たに購入した文化財等、テーマを設定し、展示 ③子ども向け講座：夏休み期間に[夏休み子ども博物館]として「リトル学芸員」「あらかわ職人道場」「勾玉づくり」「俳句を作ろう」等の体験学習を実施 ④一般向け講座：文化館学芸員による「古文書講座（初級・中級）」「地域史講座」「史跡めぐり」等のほか、外部講師による「文化財講座」（様々なテーマで荒川を探る講座）を実施 ⑤文化財交流事業：区と交流都市の文化財を通しての文化交流を紹介している ⑥奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会：俳句を通じた大垣市との交流も兼ねて実施						
経過	○平成27年度 企画展を年2回開催から1回開催に変更、館蔵資料展を以後2回実施している ○平成28年度 企画展「三ノ輪の殿様—あらかわの大名屋敷—」「あらかわのたからもの展」等の開催、故金子兜太氏の句碑解説パネルを掲示 ○平成29年度 荒川区文化財保護条例施行35周年記念の企画展「下町の名宝展～あらかわの有形文化財～」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」「道具が語る昭和の暮らし展」等の開催。「子ども俳句相撲大会」を当該事業費に統合 ○平成30年度 企画展「あらかわと職人の歴史世界part2」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」、「道具が語る昭和の暮らし展PART.2」、パネル展「奥の細道330周年記念 句碑でたどる奥の細道の旅」等の開催 ○令和元年度 奥の細道旅立ち330周年を記念して、常設展示に「奥の細道コーナー」新設。企画展「あらかわと太田道灌」（仮）						
必要性	区の歴史・文化に関連して収集した資料等を、区民が郷土の歴史・文化に親しみ理解を深めるためだけでなく、区のPR資源として役立てており、また、第三次生涯学習計画の施策の柱1「学びの基盤を整備・拡充する」の推進のため、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 企画展入館者数(人)	4,004	2,416	3849	3,000	5,000	30年度はパネル展を含む
	② 各種事業延べ参加者数(人)	225	288	235	300	400	講座・講演会などの延参加者数
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	区民が郷土の歴史や文化に親しみ、知識を深めるために必要な事業であるため、今後も講座・展示等を継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		6,885	7,302	4,826	6,127	7,261	8,433	11,493
決算額(元年度は見込み)		5,766	6,307	3,808	5,177	5,281	5,802	11,493
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名(元年度は見込み)								
企画展(回)		2	2	1	1	1	2	1
館蔵資料展(回)		1	1	2	2	2	2	2
予算・決算の内訳		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
需用費	企画展図録・ポスター等	1,090	需用費	企画展図録・ポスター等	2,042	需用費	企画展図録・ポスター等	1,874
委託料	企画展示等製作委託等	2,681	委託料	企画展示等製作委託等	1,806	委託料	企画展示等製作委託等	6,479
役務費	企画展美術梱包輸送等	952	役務費	企画展美術梱包輸送等	1,238	役務費	企画展美術梱包輸送等	1,990
報償費	企画展講演会謝礼等	435	報償費	企画展講演会謝礼等	463	報償費	企画展講演会謝礼等	851
旅費	企画展展示資料調査旅費等	73	旅費	企画展展示資料調査旅費等	103	旅費	企画展展示資料調査旅費等	168
賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	0	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	99	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	50
負担金補助等	東西俳句相撲派遣参加費	50	負担金補助等	東西俳句相撲派遣参加費	51	負担金補助等	東西俳句相撲派遣参加費	81

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	10,890	7,447	▲ 3,443	地方税	0	0	0
	物件費	4,756	5,249	493	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	392	392
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	525	553	28	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	218	319	101
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	218	711	493
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,076	399	▲ 677	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 17,029	▲ 12,937	4,092
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	17,247	13,648	▲ 3,599	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 17,029	▲ 12,937	4,092
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 17,029	▲ 12,937	4,092	

備考 行政費用は、給与関係費と物件費が多くかかっている。物件費の主な内訳は、ポスター・図録等の印刷製本費2,042千円、パネル製作等の委託費1,806千円等である。行政収入では、展示解説図録等の荒川有償頒布物代金収入のほか、30年度はオリンピック・パラリンピック関連の都補助収入があった。

問題点・課題 ①企画展、館蔵資料展については、テーマや内容により入館者数が大きく変動するため、さらに区民のニーズを踏まえたより質の高い展示を提供するとともに、奥の細道サミット関連自治体を中心とした文化財交流のコーナーなどを充実する必要がある。
②各種事業参加者が減少傾向にあるため、類似の事業を行っている課の情報を収集するとともに、図書館、観光や文化振興所管課との連携を図り、文化館の特性を生かした事業を展開することが必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	文化館開館20周年記念に伝統工芸品をテーマにした企画展や、奥の細道旅立ち330年を記念して奥の細道パネル展を実施する。	企画展では地域の職人との深い関わりや伝統工芸技術の素晴らしさを紹介した。また奥の細道パネル展を開催した。	常設展示室内に奥の細道コーナーを新設、旅立ち330周年記念シンポジウムを開催。区ゆかりの武将・太田道灌展を開催。
②	企画展の開催にあたり、伝統工芸ギャラリーでの催しが相乗効果をもたらすよう工夫する。	企画展の関連事業として、伝統工芸ギャラリーでの匠トーク(展示解説)や職人を訪ねる工房探検を行い、集客を図った。	奥の細道旅立ち330周年記念事業を契機として関係各課と連携し、文化館及び事業のPRに努める。
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会議決(要旨) 平成29年2月予特 伝統工芸ギャラリーについて
平成30年9月決特 尾久初空襲の歴史検証、資料作成について

予算・決算額等の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額	11,670	12,730	17,001	14,185	19,576	18,221	27,349
決算額（元年度は見込み）	9,034	9,911	13,032	10,771	16,322	12,847	27,349
実績の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）							
文化財保護推進委員会（回）	6	6	6	6	6	6	6
文化財保護審議会・部会（回）	8	6	6	8	6	5	6
指定・登録文化財件数（件）	6	4	4	5	5	5	5
埋蔵文化財調査支援委託（件）	10	16	21	14	16	18	18

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	文化財保護審議会委員等	2,100	報酬	文化財保護審議会委員等	2,109	報酬	文化財保護審議会委員等	2,769
報償費	祭礼調査等謝礼	830	報償費	祭礼調査等謝礼	283	報償費	祭礼調査等謝礼	1,945
旅費	文化財保護審議会委員等旅費	41	旅費	文化財保護審議会委員等旅費	34	旅費	文化財保護審議会委員等旅費	116
需用費	埋文等消耗品	232	需用費	埋文等消耗品	127	需用費	埋文等消耗品	644
役務費	文化財登録筆耕料等	5	役務費	文化財登録筆耕料等	44	役務費	文化財登録筆耕料等	93
委託料	指定無形文化財標札等	6,836	委託料	指定無形文化財標札等	5,646	委託料	指定無形文化財標札等	19,008
使用料等	煉瓦塀敷地借地料	167	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	167

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額
	給与関係費	6,154	7,368	1,214	地方税	0	0
	物件費	7,614	6,018	▲ 1,596	国庫支出金	1,250	1,000
	維持補修費	173	0	▲ 173	都支出金	2,160	895
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0
	補助費等	6,436	4,721	▲ 1,715	使用料及び手数料	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	3,410	1,895
	賞与・退職給与引当金繰入額	401	281	▲ 120	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 17,368	▲ 16,493
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0
	行政費用合計(b)	20,778	18,388	▲ 2,390	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 17,368	▲ 16,493
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 17,368	▲ 16,493

備考 行政費用では、29年度と比較して物件費が2割程度減少した。これは荒川遊園煉瓦塀の構造調査委託料が2,311千円がかかった一方、英訳史跡説明板の設置数が6基（前年比-14基）と少なかったためである。行政収入では、遺跡発掘調査等並びに英訳説明板整備に関する国庫補助・都補助収入があった。

- 問題点・課題
- ①保存すべき有形・無形文化財の登録を実施するために、建造物や近代遺産、伝統工芸技術保持者等について調査・把握する必要がある。
 - ②急増する外国人観光客に対応するため、史跡説明板に英語版の設置を進める必要がある。
 - ③観光客の増加などに伴い、文化財の保存・活用について検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	文化財保護推進員等の協力を受け、地域の文化財に関する情報収集に努め、調査を行い保存の周知を図る。	元三島神社、素盞雄神社、諏方神社の調査を実施した。昨年度に続き荒川遊園煉瓦塀の調査を行い登録文化財とした。	文化財保護推進員等の協力を得て地域の文化財に関する情報収集に努め、個別調査を行う。
②	外国人観光客に区の文化財や史跡を紹介するため、日暮里地区（29年度未実施個所）の史跡説明板に英訳説明板を設置する。	外国人観光客に区の文化財や史跡を紹介するため、日暮里地区（29年度未実施個所）の史跡説明板6ヶ所に英訳説明板を設置した。	外国人観光客に区の文化財や史跡を紹介するため、南千住地区等の史跡説明板に英訳説明板を設置する。
③	文化財の所有者等を訪問し、文化財保護推進員の協力を受けながら現状確認に努める。	文化財の所有者等を訪問し、文化財保護推進員の協力を受けながら、現状確認に努めた。	引き続き、文化財保護推進員の協力を得ながら現状確認に努める。

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

況（要旨） 平成28年度9月決特 天王祭の無形民俗文化財への登録について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	05-02-26	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事				
事務事業名	江戸伝統技術	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	漆畑		
		担当者名	曲田	内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-03-03	江戸伝統技術					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度） <input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業						
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 55 年度	根拠					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術と保持者の存在を広く区内外に周知し、地域の文化遺産として活用を図る。区民が伝統工芸技術の素晴らしさに触れることにより、技術の保存・継承への理解を深め、伝統工芸技術保持者の技術継承の意欲促進を図る。						
対象者等	伝統工芸技術及び保持者、伝統技術保持者の継承者、伝統技術展来場者、職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映像視聴者、文化館展示観覧者、伝統工芸ギャラリー入場者、学校職人教室実施校児童、観光客						
内容	①あらかわの伝統技術展：区内の伝統技術保持者等が一堂に会して、作品の展示、技術の実演、来場者の体験コーナー等を行う ②荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：荒川区登録無形文化財保持者及び荒川区伝統工芸技術保存会会員を対象に、技術継承者育成のための手当を補助 ③あらかわ学校職人教室：伝統工芸技術保持者が全小学校で、技術の実演・解説・体験学習等を実施 ④伝統工芸技術記録映像制作：指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映像を制作 ⑤伝統工芸品購入：指定無形文化財保持者の作品購入（原則、記録映画で撮影対象となる作品等） ⑥あらかわ職人道場：夏休み子ども博物館の事業として、伝統工芸技術を体験できる教室を実施 ⑦あらかわ伝統工芸ギャラリー：荒川区伝統工芸技術保存会会員等の作品を展示。年3回展示。職人による展示解説。あらかわ座（実演・体験）を開催 ⑧庁舎エントランス展示：荒川ブランドの伝統工芸品を展示。年3回展示替え						
経過	○昭和55年 あらかわの伝統技術展開始。令和元年度第40回（7月5日～7日） ○昭和59年 あらかわ学校職人教室開始（H19～全校実施） ○昭和60年 伝統工芸技術記録映画製作開始 平成30年度：川嶋秀勝氏（木版画摺） ○平成元年 伝統工芸品購入開始 平成30年度購入品：木版画摺作品 ○平成16年 あらかわ職人道場試行実施（17年度より本格実施） ○平成19年 あらかわ学校職人教室を全校で実施 ○平成20年 庁舎エントランスでの展示開始 ○平成21年 荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業実施（31年2月現在：対象者9人） ○平成28年5月 ウィーン市ドナウシュタット区で開催された交流20周年記念イベントで、荒川区伝統工芸技術保存会会員、若手職人によるデモンストレーション及びワークショップを実施 ○平成29年5月2日 あらかわ伝統工芸ギャラリーオープン						
必要性	伝統工芸技術の魅力を区内外に紹介し、理解を深める貴重な機会であるだけでなく、技術の保存・継承のため欠かせない事業であり、第三次生涯学習推進計画の施策の柱2「区民一人ひとりの学びを支援する」、施策3「地域で学び活躍する人材を支援する」の推進のためにも充実する必要がある。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会の共催、伝統工芸ギャラリーは荒川区伝統工芸技術保存会と協働運営						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 伝統技術展入場者数（人）	15,700	16,000	18,000	2,400	20,500	
	② 技術展入場者の満足度（%）		80	82	84	100	アンケートの「良かった催し」への○の割合（29年度～）
③ 伝統工芸ギャラリー入場者数（人）		20,059	19,897	20,500	22,000	平成29年度開設	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
重点的に推進	重点的に推進	江戸から受け継がれてきた荒川区の伝統工芸技術とその保持者を、地域の文化遺産として保存・継承・活用するための事業であり、重点的に推進していく。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		29,589	31,873	33,150	36,253	35,125	40,865	45,286
決算額(元年度は見込み)		28,881	29,999	32,536	31,197	30,384	32,550	45,286
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名(元年度は見込み)								
「伝統技術展」入場者数(人)		13,200	14,700	14,400	15,700	16,000	18,000	7,000
「継承者育成事業」参加者数		9	9	10	9	8	9	7
「学校職人教室」参加校数(校)		24	24	24	24	24	24	24
伝統工芸記録映像(本)()内累計		1(49)	1(50)	1(51)	1(52)	1(53)	1(54)	1(55)
予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	伝統技術展等謝礼	2,692	報償費	伝統技術展等謝礼	2,924	報償費	伝統技術展等謝礼	4,500
需用費	伝統技術展ポスター製作費等	1,312	需用費	伝統技術展ポスター製作費等	1,208	需用費	伝統技術展ポスター製作費等	1,807
役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,444	役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,555	役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,733
委託料	伝統技術展会場設営委託等	12,441	委託料	伝統技術展会場設営委託等	13,005	委託料	伝統技術展会場設営委託等	17,368
使用料等	伝統技術展会場使用料等	924	使用料等	伝統技術展会場使用料等	925	使用料等	伝統技術展会場使用料等	2,916
備品購入費	伝統工芸品購入等	387	備品購入費	伝統工芸品購入等	783	備品購入費	伝統工芸品購入等	402
負担金補助等	匠育成支援事業補助金	11,183	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	12,150	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	16,560

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	5,037	6,948	1,911	地方税	0	0	0
	物件費	13,199	14,175	976	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	14,053	15,252	1,199	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	498	372	▲126	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲32,787	▲36,747	▲3,960
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	32,787	36,747	3,960	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲32,787	▲36,747	▲3,960
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲32,787	▲36,747	▲3,960	

備考

行政費用では、補助費と物件費が多くかかっている。物件費の主な内訳としては、伝統技術展の会場設営委託に9,169千円かかっている。

問題点・課題

①伝統技術展等事業の一層の周知のため、区ホームページの内容を工夫する。特に今年度の伝統技術展はスポーツセンター改修により会場が変更になるため、よりPRの強化を図ることが必要になる。
②あらかわ伝統工芸ギャラリーにおける展示、あらかわ座(実演・体験・展示解説)、あらかわ座市のPRをより積極的に行う。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	SNSの活用、保存会HPなどとの連携を図り、PR方法を工夫する。	荒川区HP、保存会HPに加え、SNSを活用し「あらかわ座」等で一定の参加者を得ることができた。	SNSの活用、保存会HPなどとの連携を図り、区内外への周知方法を工夫する。
②	「あらかわ座」開催の周知に努め、伝統工芸技術保持者の実演・体験のほか、伝統工芸品の販売を実施する。	荒川区伝統工芸技術保存会の職人が土日に展示解説を実施。さらに同会による展示・解説・販売「あらかわ座市」を3回開催した。	あらかわ伝統工芸ギャラリーでの展示と本庁舎エントランス展示との間に相乗効果が生じるよう実施していく。
③	継承者育成支援事業卒業生が区内で活動できるよう家賃補助等の支援を充実する。	継承者育成支援事業卒業生が区内で活動できるよう家賃補助等の支援を充実した。	継承者育成支援事業卒業生の作品展示や活動場所について支援する。

実施状況	(実施 5 区)	未実施 17 区	不明 0 区)
他区の実況	①伝統技術展は、他に文京・北・葛飾・江東・墨田・練馬・足立の7区で実施しているが、規模・業種・職人数で、基礎自治体の事業として最大級であり全国一である。②学校職人教室は全国で荒川区のみ。③伝統工芸技術継承者育成支援事業は、文化財保護事業として実施している自治体は全国で荒川区のみ		

状況(要旨)	平成30年9月決特 伝統技術展の補助金活用について
議会質問	